

SUZUKI

Outboard motor

DF25AQH

DF30AQH/T/TH

- ご使用になる前によくお読みください。
- 使用時にはこの取扱説明書を必ず携帯してください。

船外機取扱説明書

はじめに

スズキ船外機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
船外機は取扱いを誤ると重大な事故や故障の原因になります。
使用時にはこの取扱説明書を必ず携帯し、いつまでも快適なマリン
ライフをお楽しみください。

- この取扱説明書には、船外機の正しい取扱い方法と簡単な保守・
点検・整備などについて説明しております。
- この取扱説明書には、使用に際して特に重要な留意事項を強調す
るために「▲警告・▲注意・注記・△アドバイス」のシ
ンボルマークを用いて表示しております。
これらのシンボルマークにより強調して表現された内容は、以下
のような意味を持ちますので特にしっかりお読みください。

▲警告	取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につな がるおそれがある内容です。
▲注意	取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある 内容です。
注記	取扱いを誤ると、船外機、ボートまたは他の物 的損害につながるおそれのある内容です。
△アドバイス	操作や保守点検を容易にしたり、重要な指示を さらに明確にするための特別な情報です。

- ご使用時は、この取扱説明書を必ず携帯していつでも見
ができるようにしてください。
- この取扱説明書は、紛失や破損しないような場所に大切に保管し
てください。

- この取扱説明書は製品の一部です。この船外機を転売や譲渡等される場合は、次に所有される方のために、この取扱説明書を船外機と一緒に譲りください。
- 船外機の仕様などの変更により、この説明書の内容や図と、お買い求めいただいた船外機が一致しない場合があります。
あらかじめご了承ください。
- ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのスズキ販売店またはスズキ特約店にご相談し、又はお申しつけください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面の販売店名、捺印を確認の上、大切に保存してください。
- スズキ株式会社は地球環境の保全に取り組んでいます。
いつまでも快適なマリンライフをお楽しみいただけるよう、オイルやガソリンその他環境に有害な製品で地球環境を汚染しないようにしてください。オイルやバッテリーはリサイクル、または適切な方法で廃棄してください。

目次

ページ	ページ
1 安全に係わる情報 4 オーナー・船長に守っていただきたいこと 4 安全にご使用いただくために 4 セーフティラベル貼付位置 6	チルトアップロックレバー 〈DF30AT/30ATH〉 21 マニュアルレリーズバルブ 〈DF30AT/30ATH〉 22 エンジンカバーフックレバー 22 リモートコントロールボックス 23
2 型式と製造番号 8	・エマージェンシー 23 ストップスイッチ 23 ・イグニッションスイッチ 24 ・NSI 装置 {始動安全装置} 25 ・リモコンレバー 25 ・ロックアウトレバー 25 ・ウォームアップレバー 26 ・フリーアクセルボタン 26 ・リモコンレバー操作力調整ノブ 27
3 燃料とオイル 9 燃 料 9 エンジンオイル 9 ギヤオイル 10	燃料タンク 28 燃料ホース 29 警告ランプ 29
4 各部の名称 11	6 モニターシステム 30 オーバーレブ警告 31 オイルプレッシャー警告 32 オーバーヒート警告 33 ダイアグノーシス 33 運転時間表示 34 エンジンストールお知らせ機能 36
5 各部の取扱い 15 エンジンストップスイッチ 〈ティラーハンドル仕様〉 15 ・エンジンストップボタン 15 ・エマージェンシー 15 ストップスイッチ 15 エンジンスタートボタン 〈ティラーハンドル、 電動スターター仕様〉 16 リコイルスターターグリップ 16 NSI 装置 {始動安全装置} 16 シフトレバー 〈ティラーハンドル仕様〉 17 ステアリングフリクションレバー 〈ティラーハンドル仕様〉 17 ティラーハンドル 〈ティラーハンドル仕様〉 17 スロットルコントロールグリップ 〈ティラーハンドル仕様〉 17 スロットル操作力アジャスター 〈ティラーハンドル仕様〉 18 レリーズレバー 〈ティラーハンドル仕 様 (DF25AQH/30AQH)〉 18 チルトアップロックレバー 〈ティラ ーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)〉 19 チルトビン 〈DF25AQH/30AQH〉 19 PTTスイッチ 〈ティラーハンドル仕様 (DF30ATH)〉 20 PTTスイッチ 〈リモートコントロール 仕様 (DF30AT)〉 20	
7 船外機の取付け 37 船外機の取付け 37	7 船外機の取付け 37 船外機の取付け 37
8 バッテリー 40 推進バッテリー 40 バッテリーの取付け 40 バッテリーケーブルの接続 40 バッテリーケーブルの取外し 41	8 バッテリー 40 推進バッテリー 40 バッテリーの取付け 40 バッテリーケーブルの接続 40 バッテリーケーブルの取外し 41
9 燃料給油 42 燃料タンクへの給油 42	9 燃料給油 42 燃料タンクへの給油 42
10 日常点検 43	10 日常点検 43
11 ならし運転 45	11 ならし運転 45

ページ	ページ		
12 運転・操作	46	15 定期点検	70
エンジン始動	46	16 簡単な点検・整備	72
・エンジン始動要領	46	サービス工具	72
・検水	51	スパークプラグ	73
シフト操作・スピードコントロール		・取外し	73
〈ティラーハンドル仕様		・点検	73
(DF25AQH/30AQH/30ATH)〉	51	・取付け	74
・前進	51	エンジンオイル	74
・後進	52	・オイル量、汚れの点検	74
・スピードコントロール	52	・エンジンオイルの補給	74
シフト操作・スピードコントロール	53	・エンジンオイル交換	75
・〈リモートコントロール仕様		エンジンオイルフィルター	77
(DF30AT)〉	53	タイミングベルト	77
・前進・後進のシフト操作	54	燃料系統／ブリーザーホース	77
・スピードコントロール	54	・燃料系統	78
エンジン停止	54	・燃料フィルター	78
チルトアップ／ダウン 〈ティラーハン		・低圧燃料ポンプフィルター	79
ドル仕様 (DF25AQH/30AQH)〉	56	・ブリーザーホース	79
・チルトアップ	56	ギヤオイル	79
・チルトダウン	57	・オイル交換	79
チルトアップ／ダウン 〈リモートコントロール仕様 (DF30AT) ティラーハン		・ギヤオイルレベルの点検	81
ドル仕様 (DF30ATH)〉	57	アノード	81
・チルトアップ	57	バッテリー	82
・チルトダウン	59	・バッテリー液量の点検	83
係留	59	・バッテリー液の補給	83
浅瀬航走	59	ボルト＆ナット	83
・〈ティラーハンドル仕様		給油／給脂	84
(DF25AQH/30AQH)〉	59	プロペラ	85
浅瀬航走	61	・点検	85
・〈リモートコントロール仕様		・プロペラの取外し	85
(DF30AT)	61	・プロペラの取付け	86
・ティラーハンドル仕様		17 冷却水経路の洗浄	87
(DF30ATH)〉	61	18 長期格納	88
寒冷地での使用	61	格納前の整備	88
13 調整	62	格納後 (使用前) の整備	88
プロペラ	62	19 ブラブルと対処	89
トローリングスピード	62	トラブルシューティング	89
トリム角の調整	62	ヒューズが切れたとき	90
トリムタブ	66	水没船外機の処置	91
14 取外しと運搬	67	緊急時の始動要領	92
取外し	67	20 仕様諸元	95
運搬	67	製品についてのご相談、ご要望は	97
トレーラーリング	69	点検・整備記録表	99

1 安全に係わる情報

▲ 警 告

この「安全に係わる情報」の章に記載された事項を怠ると、重大な人身事故を招いたり、船外機、ボートが損傷する原因になります。
必ずこの章に記述した事項を厳守してください。

オーナー・船長に守っていただきたいこと

- ・ご使用前に、この取扱説明書をよく読んで理解してください。
- ・取扱説明書に従って適切なメンテナンスと定期点検を実施してください。

安全にご使用いただくために

- ・ご使用前に艇体・船外機の取扱説明書と艇体・船外機に貼り付けられている全ての注意書きやラベルをよく読み内容を十分に理解してください。
- ・ボートのオーバーパワーは、操縦が不安定になり転覆等のおそれがあります。ボートの指定最大出力を超えるエンジンを搭載しないでください。
- ・船外機の機能に影響する改造は、絶対におこなわないでください。
- ・ご使用の都度、ご使用前に必ず日常点検を行ってください。
必要な点検項目は、この取扱説明書の「10 日常点検」の章に記載してあります。

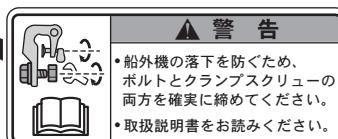
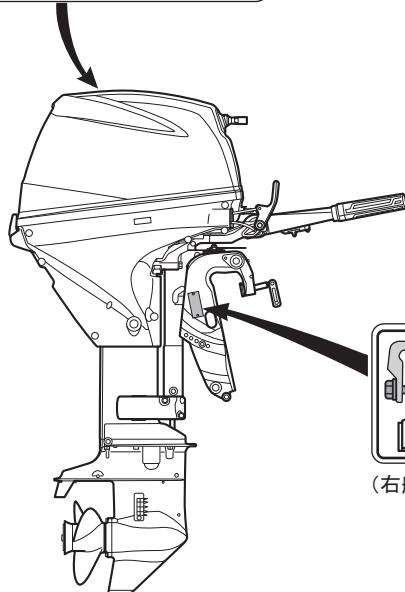
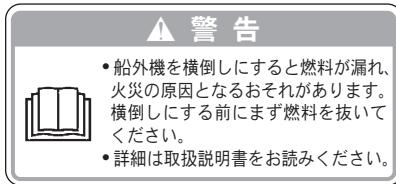
- ・出航前には日常点検に併せ、各部の作動点検をしてください。
スロットル／シフトコントロール、全てのスイッチ類、ステアリング装置が適正に機能するかを点検してください。
- ・排気ガスは一酸化炭素を含み中毒を引きおこすおそれがあります。
ボートハウスなど閉め切った所では、エンジンを始動しないでください。
- ・気化したガソリンは引火爆発のおそれがあります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。
- ・最初は安全な場所でボート・船外機の全ての装置の操作方法、操船（発進・停止・後進・旋回）の感覚を習得し、その後航走の練習をしてください。

- ・各種装置の操作方法、ポート・船外機の特性の全てを完全に理解するまでは全速で航走しないでください。
- ・操船者自身の技術レベル、海面の状況に合った安全なスピードで操船することを常に心がけてください。
- ・海の気象は変わり易いものです。
常に天気予報を確認し、天気が悪くなりそうなときは出航しないことや寄港することを守ってください。
- ・航行計画をマリーナ、身内又は友人に知らせておいてください。
- ・出航時には必ず安全備品を携行しましょう。
いつでも使用できるよう、整理・整頓をして積み込んでください。
　　ライフジャケット・救命浮環・アンカー・ロープ・バケツ・工具・パドル・消火器・呼子・発煙灯・予備燃料・救急箱 等。
- ・乗船者は全員、国によって安全性が確認された証である桜マークがあり、かつ乗船する小型船舶の種類、乗船者の年齢に応じたライフジャケットを正しく着用してください。
- ・酒気を帯びたり、正常な判断及び運転技術を妨げるおそれのある薬物を服用した状態で操船をしないでください。
- ・船外機を乗船や下船のときの足場や取っ手として利用しないでください。

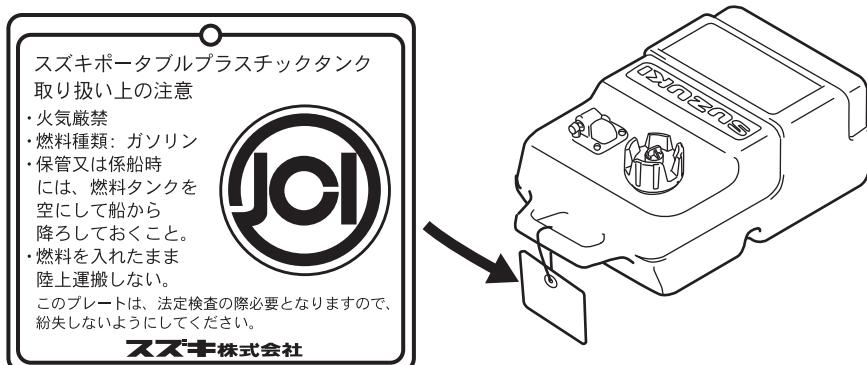
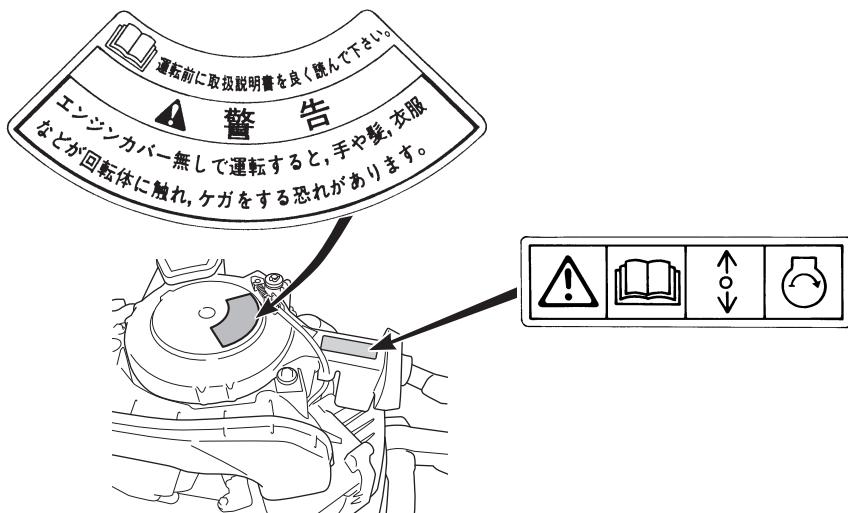
- ・乗船者に緊急事態の心得について指導してください。
操船要領、緊急事態・トラブルが起きたとき、どのように対処すればよいかという基本的な事項を説明してください。
- ・海の交通法規、それぞれの使用地域で規定された法規や条例を守ってください。
- ・操船中はエマージェンシーストップスイッチのエンジンストップスイッチコードを体の一部（手・足・衣服・ライフジャケット等の丈夫な場所）に必ず付けてください。
- ・常に守りの姿勢で操船してください。
操船中は他の船舶、ポート、スキーヤー、ダイバー、遊泳者がいないか、水中に障害物がないか、常に全方向に細心の注意を払い、安全なスピードで運転してください。
- ・遊泳者には近づかないようにしてください。
- ・遊泳時にはエンジンを停止してください。
- ・船外機の部品交換、並びに用品の選択と組付けを行うときは、特に注意をしてください。
不適切な、又は粗悪な部品を使用すると、船外機の作動が不安定になり悪影響をあたえます。
スズキ純正部品・用品及びスズキが推奨する部品を使用してください。

セーフティラベル貼付位置

- ・警告／注意 のラベルをよく読んで内容を理解してください。
- ・警告／注意 のラベルを汚したり、はがしたりしないでください。



(右舷側クランプブラケットに貼付)



シンボルマーク

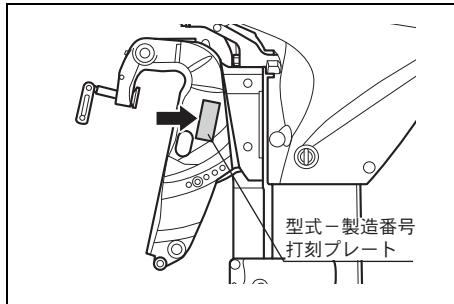
各シンボルマークは次のような意味を示します。

注意／警告 マニュアル熟読 リモコンレバー／シフトレバー エンジン起動
操作方向、2方向



2 型式と製造番号

船外機の型式と製造番号がクランププラケットに貼りつけてあるプレートに打刻してあります。



型式・製造番号は、スズキ特約店またはスズキ販売店が迅速で的確なサービスを行うために必要となります。

アドバイス

スズキ特約店またはスズキ販売店へ本製品のこと、アフターサービスや部品についてのご相談時には型式と製造番号を確認の上、正確にご連絡ください。

今後のご相談のために、お買い求めいただきました船外機の型式と製造番号を控えておくと便利です。

型式 — 製造番号

3 燃料とオイル

燃 料

▲ 警 告

気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。
ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

▲ 警 告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。

燃料タンクへの給油時や取扱い時には、次のことを守ってください。

- ・火気厳禁です。タバコをすったり、火気を近づけないでください。
また燃え易いものを近づけないでください。
- ・給油は、エンジンを停止してから行ってください。
- ・給油は、風通しの良い所で行ってください。
- ・ポータブル燃料タンクへの給油は、タンクを船外におろして行ってください。
- ・燃料をこぼさないでください。
こぼれたガソリンは、布などでただちに拭き取り、その布は火災及び環境に留意して処分してください。
- ・燃料タンクへは、規定容量以上給油しないでください。
- ・燃料タンクキャップは、ゆっくりとあけ、給油後は、所定の位置に確実に締めてください。

推奨燃料：
無鉛レギュラーガソリン

注 記

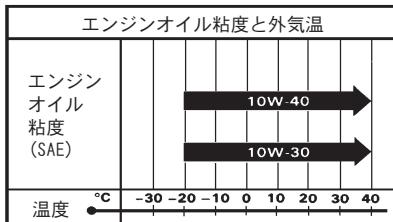
- ・常に水やゴミ等の混入がない新しいガソリンを使用してください。
- ・ガソリンは、長期間燃料タンクに入れておくと変質します。
変質したガソリンを使用するとエンジン不調の原因になります。

エンジンオイル

注 記

エンジンオイルは、エンジン性能と寿命に重大な影響を与えます。
オイルは良質で、適正なものを選択してください。

- ・4サイクルエンジンオイルの良質なもので、API分類のSG級以上を使用してください。
- ・エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものをご使用ください。
SAE10W-40は、年間を通して使用できます。



▶ アドバイス

低温時（-5°C以下）では、エンジンの良好な始動性と運転性能を得るために、SAE 5W-30の使用を推奨します。

推奨エンジンオイル：

スズキ純正「エクスター油」

- API 分類：SG 級以上
- SAE 規格：10W-40、10W-30

▶ アドバイス

お買い求めいただきました船外機は、工場からはエンジンオイルが無い状態で出荷されます。

船外機を使用する前に、必ずエンジンオイルを給油してください。

エンジンオイルの給油：

「[\[16\]簡単な点検・整備](#)」の章、エンジンオイルの項を参照してください。

ギヤオイル

スズキ純正

「スズキアウトボードモーターギヤオイル」

または

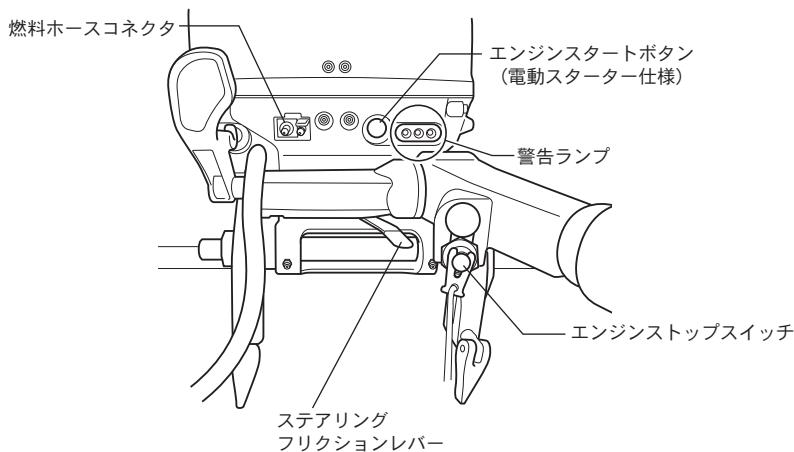
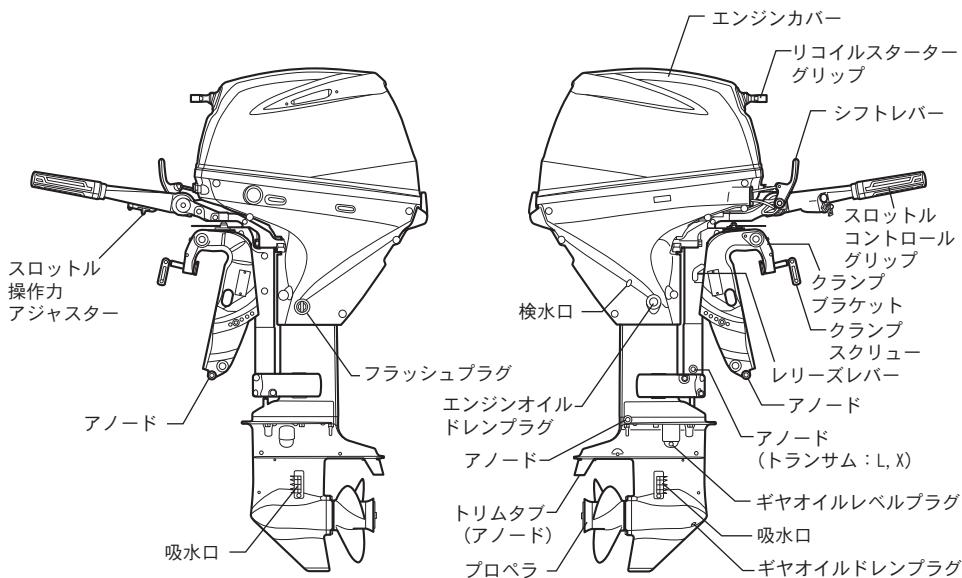
ハイポイドギヤオイル SAE90、

API 分類 GL-5相当品

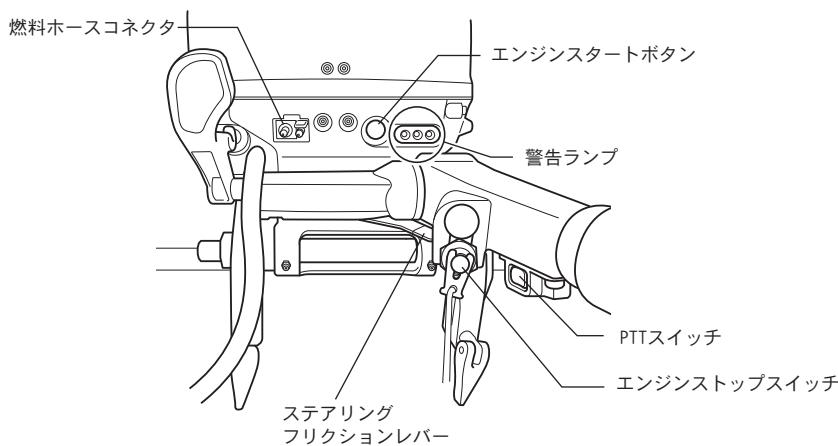
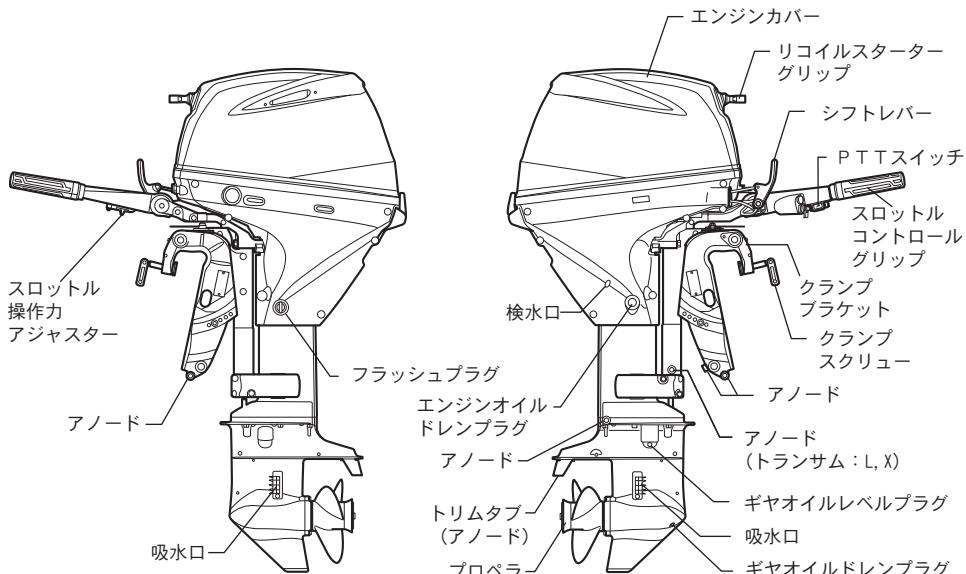
をお使いください。

4 各部の名称

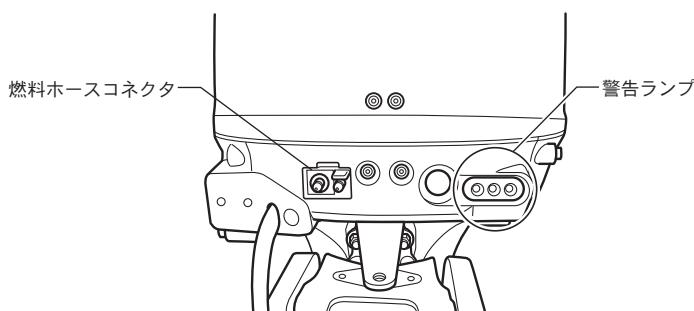
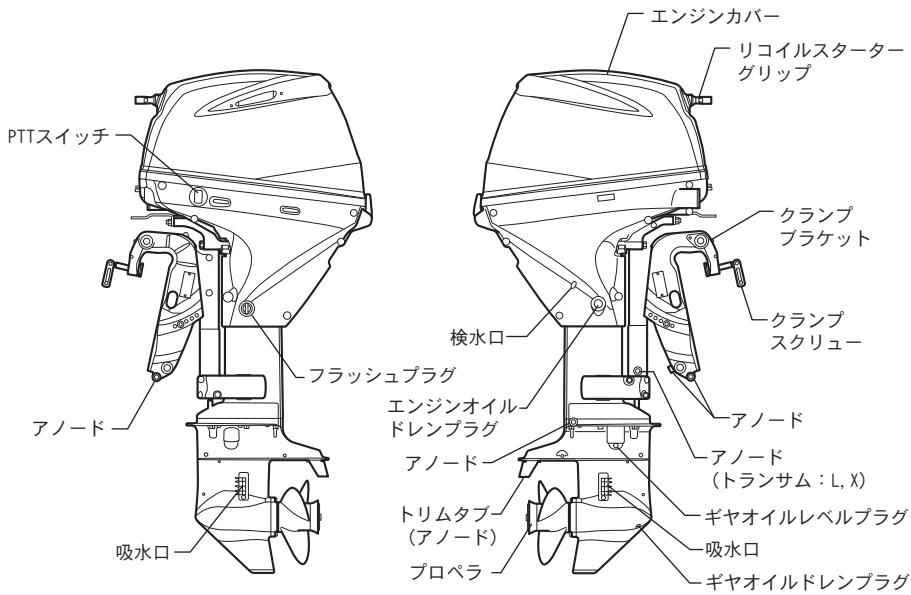
ティラーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)



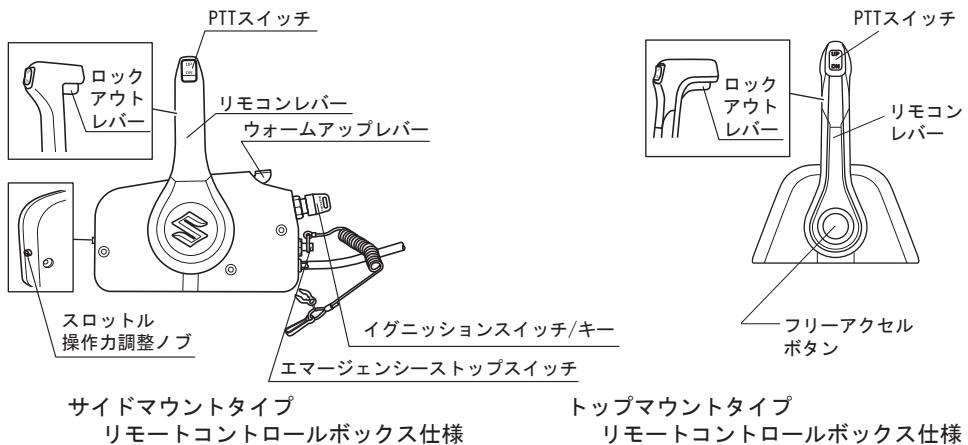
ティラーハンドル仕様 (DF30ATH)



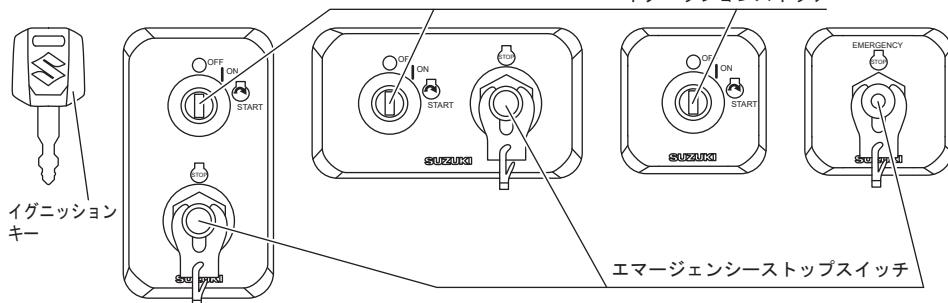
リモートコントロール仕様 (DF30AT)



リモートコントロールボックス（リモートコントロール仕様）

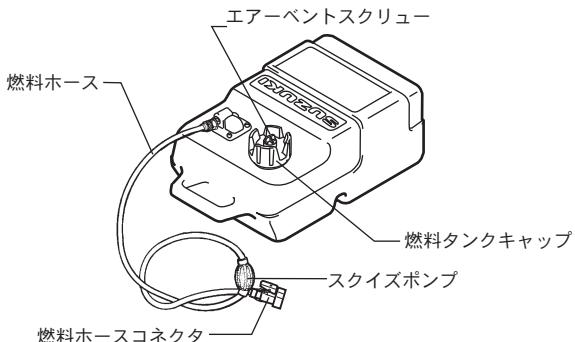


スイッチパネル



燃料タンク

（リモートコントロール／ティラーハンドル仕様）



ポータブル燃料タンク

5 各部の取扱い

エンジンストップスイッチ (ティラーハンドル仕様)

エンジンを停止させるスイッチです。このスイッチには、エンジンを停止させるために、次の2つの機能が組み込まれています。

■エンジンストップボタン

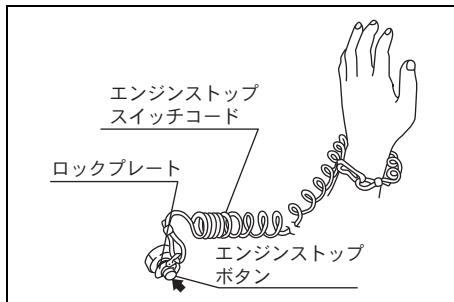
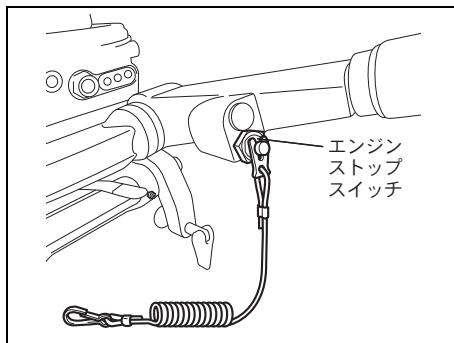
スイッチ先端の赤色部分を押すと、エンジンが停止します。

■エマージェンシーストップスイッチ

緊急時のエンジン停止スイッチです。スイッチ本体の溝にプラスチックのロックプレートが差し込まれています。操船者が通常の運転位置から外れたり、落水等をした場合、ロックプレートがスイッチの本体から抜けてエンジンを停止させます。ロックプレートに取り付けられているエンジンストップスイッチコードを運転中には、操船者の衣服、手、足等の身体の一部に必ず取り付けてください。

▲ 警 告

- エンジンストップスイッチコードを付けずに落水した場合、エンジンが停止せず暴走するおそれがあります。
- 運転中は、エンジンストップスイッチコードを身体の一部に必ず付けてください。
- 航走中にロックプレートが外れると操船が困難になったり、急減速により同乗者が転倒するおそれがあります。
- エンジンストップスイッチコードが身体の一部や、運転席の周辺の装備品等に引っかかってロックプレートが不意に外れないようにしてください。



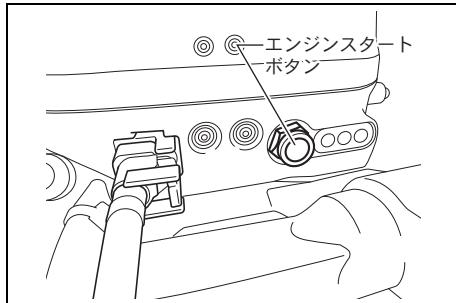
■ アドバイス

- ロックプレートがスイッチ本体の溝に差し込まれていないと、エンジンを始動させることができません。
- 予備のロックプレートは、エンジンストップスイッチコードから取り外し、船内の身近な場所に保管し、正規のプレートに不備が生じた場合、一時的にのみ使用してください。
- ロックプレート、ストップスイッチコードに損傷や不備がある場合は直ちに正常なものに交換してください。

エンジンスタートボタン

〈ティラーハンドル、電動スタートーター仕様〉

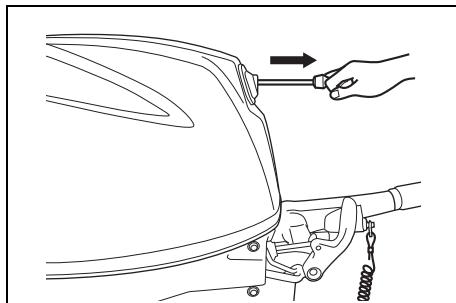
エンジンを始動するとき、ボタンを押して、スターターモーターを回します。



リコイルスターターグリップ

手動でエンジンを始動するときに操作します。

グリップを手ごたえのある位置までゆっくりと引き出し、そこから勢いよく引いてエンジンを始動させます。



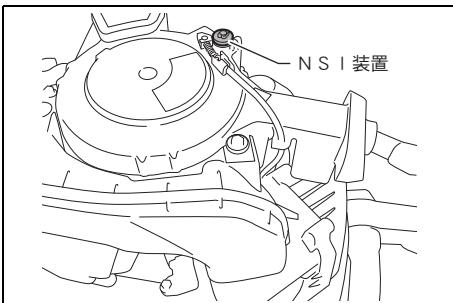
N S I 装置 [始動安全装置]

クラッチがニュートラル（中立）の位置の場合のみ、エンジン始動装置を操作することができる安全装置です。

アドバイス

クラッチがニュートラル（中立）の場合のみ

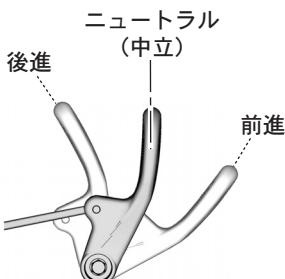
- ・リコイルスターターグリップを引き出すことができます。
- ・エンジンスタートボタンを押すと、スターターモーターが回ります。



シフトレバー (ティラーハンドル仕様)

前進、ニュートラル(中立)、後進の切り替えのシフト操作をするレバーです。

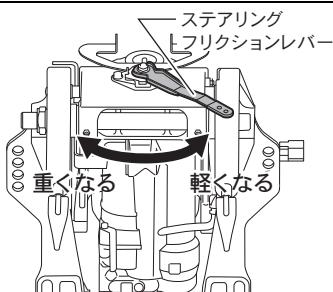
- レバーをニュートラル(中立)位置から：
- 前側(船首側)に倒すとクラッチがつながり、前進します。
 - 後側(船尾側)に倒すとクラッチがつながり、後進します。



ステアリングフリクションレバー (ティラーハンドル仕様)

操舵をするときの重さを操船者の好みに合わせ、調整するためのレバーです。

- アドバイス
- ティラーハンドルを操作する(操舵をする)時の重さは
- レバーを左に動かすと重くなり、
 - レバーを右に動かすと軽くなります。

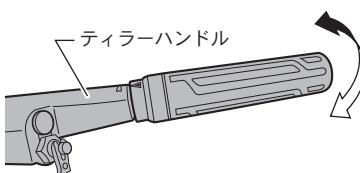


アドバイス

ステアリングフリクションレバー等、この装置の構成部品に、オイル、グリス等を塗布しないでください。

ティラーハンドル (ティラーハンドル仕様)

ティラーハンドルを左右に動かしてボートの操舵を行います。

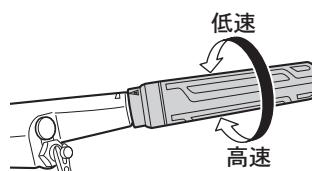


スロットルコントロールグリップ (ティラーハンドル仕様)

スロットルコントロールグリップは、ティラーハンドルに取り付けられています。グリップの回しかげんでエンジン回転を調整します。

アドバイス

- エンジン回転は
- グリップを右に回すと減速し、
 - グリップを左に回すと増速します。



スロットル操作力アジャスター <ティラーハンドル仕様>

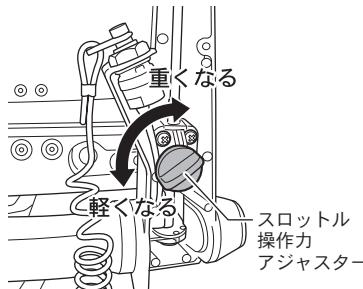
スロットルコントロールグリップを回すときの重さを操船者好みに合わせ、調整するアジャスターです。

アジャスターは、ティラーハンドルに取り付けられています。

アドバイス

スロットルコントロールグリップを回すときの重さは

- ・アジャスターを右に回すと重くなります。
- ・アジャスターを左に回すと軽くなります。



レリーズレバー <ティラーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)>

後進時に船外機のプロペラ部の跳ね上がりを防止するリバースロック装置の「固定」、「解除」をするレバーです。

■「固定 (LOCK)」位置

注記

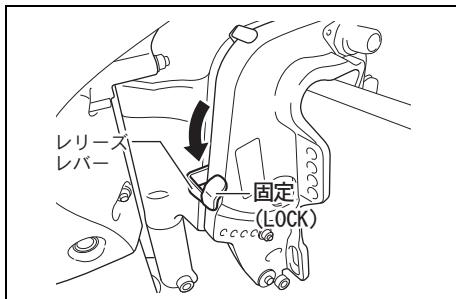
レリーズレバーを「固定 (LOCK)」位置にして航走中、船外機が水中の障害物に当たると、当たった時の衝撃によりリバースロックが解除されます。また、その衝撃により船外機、ボートのトランサムに損傷が生じるおそれがあります。

水深が浅く、水中に障害物がある所を航走する場合は、レリーズレバーを「解除 (RELEASE)」の位置にし、最低速度で、障害物に気を付けながら航走してください。

アドバイス

- ・「固定 (LOCK)」位置にするときは
- ・レバーを下に押し下げてください。
- ・レリーズレバーが「固定 (LOCK)」の位置になっている場合は、チルトアップができません。

後進をするときや、船外機の下部が水中の障害物に当たる心配のない、充分な水深がある所を航走する場合は、レリーズレバーを「固定 (LOCK)」の位置にしてください。「固定 (LOCK)」の位置にしてないと、後進時や急減速時に船外機の下部が水中から跳ね上がるおそれがあります。



■ 「解除 (RELEASE)」位置

▲ 警 告

レリーズレバーが「解除 (RELEASE)」の位置の場合、後進中にエンジン回転を上げ過ぎたり、前進中に水中の障害物に当たった時には、船外機の下部が水面上に跳ね上がり、けがをするおそれがあります。

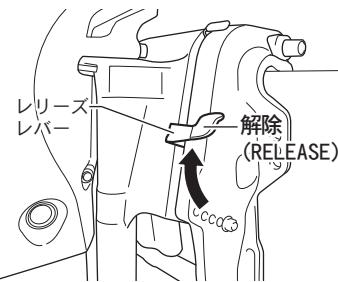
「解除 (RELEASE)」の位置で航走している場合は、船外機の操作に気を付け、最低速度で航走してください。

アドバイス

- ・「解除 (RELEASE)」位置にするときは、レバーを引き上げてください。
- ・レリーズレバーを「解除 (RELEASE)」の位置にするとチルトアップができます。

水深の浅い所を航走する場合は、レリーズレバーを「解除 (RELEASE)」の位置にしてください。

「解除 (RELEASE)」の位置にしてないと、水中の障害物に当たったときに船外機／ボートに大きな損傷を招くおそれがあります。



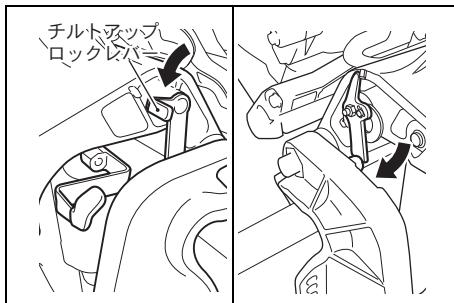
チルトアップロックレバー

〈ティラーハンドル仕様
(DF25AQH/30AQH)〉

チルトアップロックレバーは、船外機を最大にチルトアップしたとき、その位置を保持させる場合に用います。

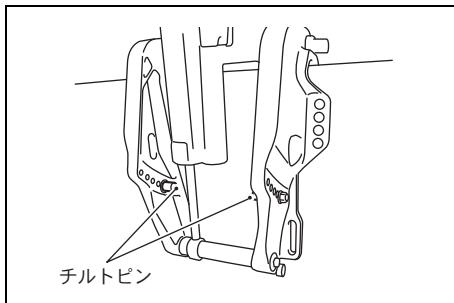
船外機を最大チルト位置にし、レバーを左(図示矢印方向)に回して下げるこにより、その位置を保持させます。

チルトを下げるときは、船外機を完全にチルトアップさせてから、レバーを引き上げてください。



チルトピン <DF25AQH/30AQH>

チルトピンの差し込み位置を変えることにより、船外機のトリムを完全に下げたときのトリム角を調節します。



PTTスイッチ

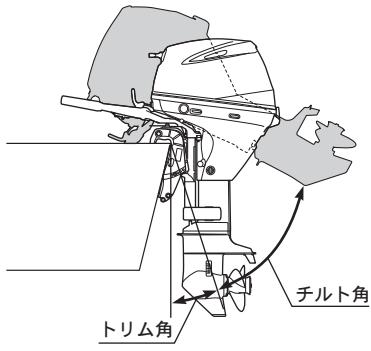
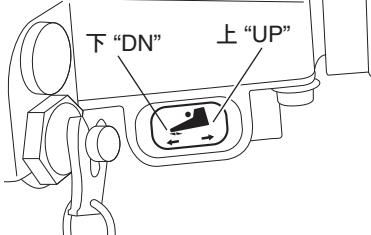
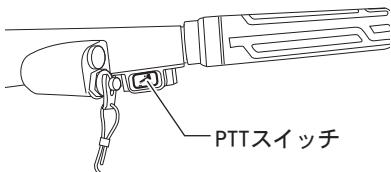
〈ティラーハンドル仕様 (DF30ATH)〉

▲ 警 告

ドライブユニットとクランププラケットの間に挟まると、けがをします。

PTTスイッチを操作し、トリム／チルトを上げたり下げたりする時は、船外機の付近に人がいないことを確認した後に行ってください。

PTTスイッチは、ティラーハンドルに取り付けられています。



PTTスイッチは、船外機のチルトの上げ下げとトリム角を調整する時に操作をします。

▲ アドバイス

エンジンが運転中、停止中にかかわらず、PTTスイッチを押せばトリム／チルトの上げ下げができます。

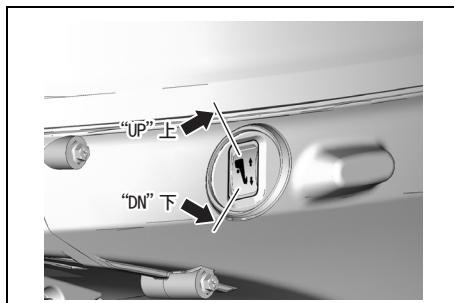
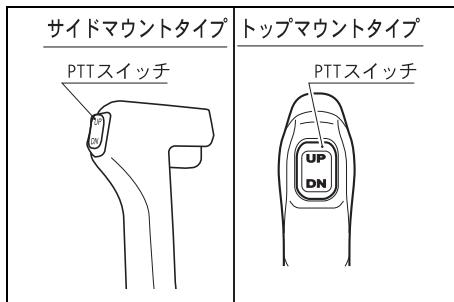
- スイッチの“UP”側を押している間だけトリム／チルトの角度が増加します。
- スイッチの“DN”側を押している間だけトリム／チルトの角度が減少します。

▲ 警 告

ドライブユニットとクランププラケットの間に挟まるとけがをします。

PTTスイッチを操作し、トリム／チルトを上げたり下げたりする時は、船外機の付近に人がいないことを確認した後に行ってください。

PTTスイッチは、リモートコントロールボックスのリモコンレバーとサイドカバーに取り付けられています。

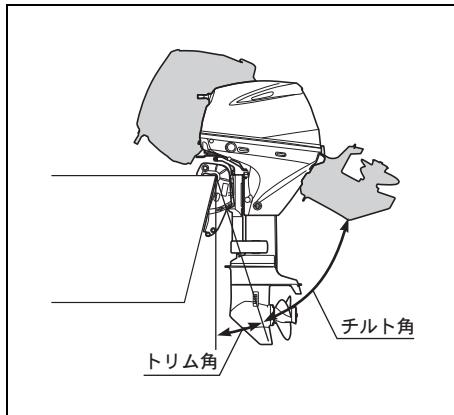


PTTスイッチは、船外機のチルトの上げ下げとトリム角を調整する時に操作をします。

アドバイス

イグニッションキーが“OFF”、“ON”的どちらの位置にあってもPTTスイッチをおせばチルト／トリムの上げ下げができます。

- スイッチの“UP”側を押している間だけトリム／チルトの角度が増加します。
- スイッチの“DN”側を押している間だけトリム／チルトの角度が減少します。

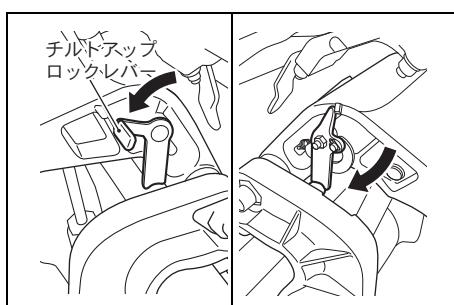


チルトアップロックレバー (DF30AT/30ATH)

チルトアップロックレバーは船外機を最大にチルトアップしたとき、その位置を保持させる場合に用います。

船外機を最大チルト位置にし、レバーを左(図示矢印方向)に回して下げることにより、その位置を保持させます。

チルトを下げるとときは、船外機を完全にチルトアップさせてから、レバーを引き上げてください。



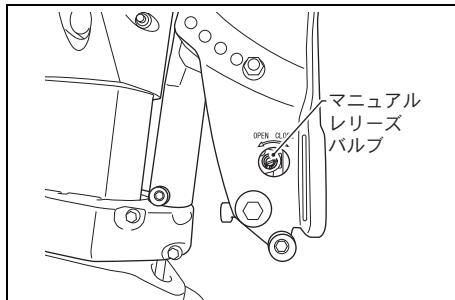
マニュアルレリーズバルブ <DF30AT/30ATH>

注記

マニュアルレリーズバルブが開いている状態で PTT を操作すると、マニュアルレリーズバルブの内部部品が破損するおそれがあります。

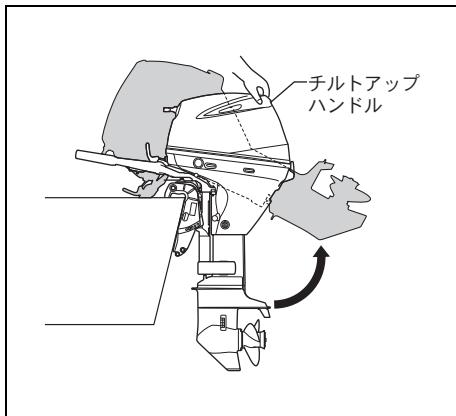
マニュアルレリーズバルブを使用して船外機を手動でチルトを上下させた後は、マニュアルレリーズバルブが完全に閉じていることを確認してください。

マニュアルレリーズバルブは手動でチルトを上げ下げするときに操作します。パワートリム＆チルト装置に不具合が生じた状況で、チルトの上げ下げが必要なときは、次の要領で操作をしてください。

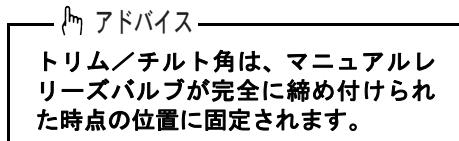


■手動でのチルトの上げ下げ

1. マニュアルレリーズバルブを左に 2 回 転回してください。
2. エンジンカバー後部のチルトアップハンドルを持って手動でチルトを上下させてください。



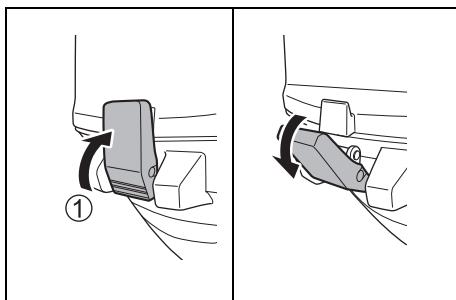
3. 好みのトリム／チルト位置で、マニュアルレリーズバルブを右に回し、完全に締め付けてください。



エンジンカバーフックレバー

エンジンカバーを取り外す場合、このレバーを操作します。

- エンジンカバーを取り外す場合は、フックレバーを図に示す矢印①の方向に引き上げ、ロックを解除してください。

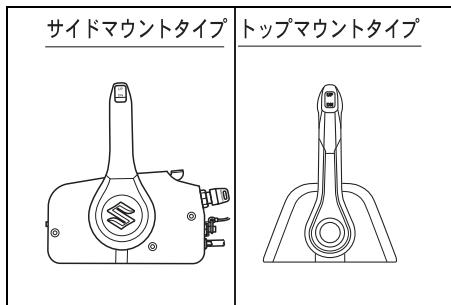


- カバーの後（船尾）側を少し持ち上げ、前側の止めを外すために、カバーを前（船首）側にスライドさせ、その後上に持ち上げてください。

- エンジンカバーの取付けは、取外しの逆の手順で行い、取付け後、カバーがフックレバーで確実に固定されていることを確認してください。

リモートコントロールボックス

運転席から船外機のシフト、スロットル、電気系統の装置の作動・停止等を遠隔操作するための装置です。



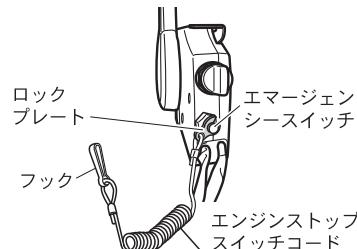
■エマージェンシーストップスイッチ

緊急時のエンジン停止スイッチです。スイッチ本体の溝にプラスチックのロックプレートが差し込まれています。操船者が通常の運転位置から外れたり、落水等をした場合、ロックプレートがスイッチの本体から抜けてエンジンを停止させます。ロックプレートに取り付けられているエンジンストップスイッチコードを運転中には、操船者の衣服、手、足等の身体の一部に必ず取り付けてください。

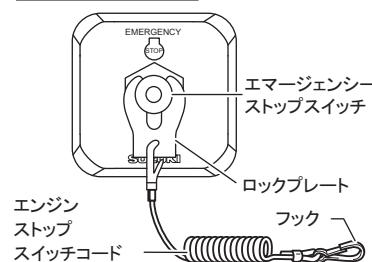
▲警告

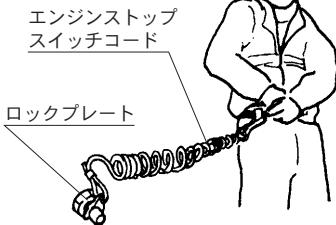
- エンジンストップスイッチコードを付けずに落水した場合、エンジンが停止せず暴走するおそれがあります。運転中は、エンジンストップスイッチコードを身体の一部に必ず付けてください。
- 航走中にロックプレートが外れると操船が困難になったり、急減速により同乗者が転倒するおそれがあります。エンジンストップスイッチコードが身体の一部や、運転席の周辺の装備品等に引っかかってロックプレートが不意に外れないようにしてください。

サイドマウントタイプ

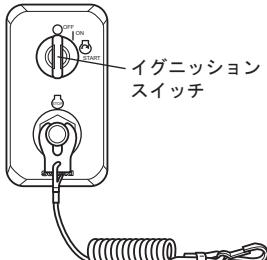


トップマウントタイプ





トップマウントタイプ



アドバイス

- ・ロックプレートがスイッチ本体の溝に差し込まれていないと、エンジンを始動させることができません。
- ・予備のロックプレートは、エンジンストップスイッチコードから取り外し、船内の身近な場所に保管し、正規のプレートに不備が生じた場合、一時的にのみ使用してください。
- ・ロックプレート、トップスイッチコードに損傷や不備がある場合は直ちに正常なものに交換してください。

次の位置にキーを操作すると、以下のようになります。

「OFF」位置

- ・エンジンが停止します。
- ・キーをスイッチ本体から抜き取ることができます。

「ON」位置

- ・エンジンを運転するときの位置です。
- ・電気回路が「ON」になり、電気系統の装置の使用ができます。
- ・キーをスイッチ本体から抜き取ることができません。

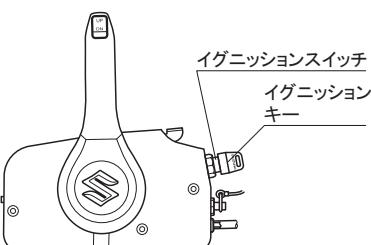
「START」位置

- ・スターターモーターが回り、エンジンが始動します。
- ・キーから手を離すと自動的に「ON」の位置に戻ります。

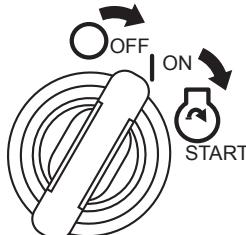
■イグニッションスイッチ

エンジンの始動・停止、電気回路の ON-OFF をするスイッチです。

サイドマウントタイプ

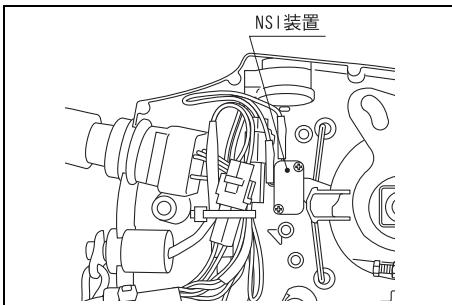


トップマウントタイプ



■ NSI 装置 [始動安全装置]

リモコンレバーがニュートラル（中立）の位置の場合のみ、エンジン始動装置を作動させることができる安全装置です。



アドバイス

リモコンレバーがニュートラル（中立）の場合のみイグニッションスイッチのキーを回すと、スターターモーターがまわります。

■ リモコンレバー

前進、ニュートラル（中立）、後進の切り替えとエンジンのスピード調整をするレバーです。

注記

エンジンを停止した状態でシフト操作をすると、シフト機構が損傷するおそれがあります。

エンジンを停止した状態でシフト操作をしないでください。

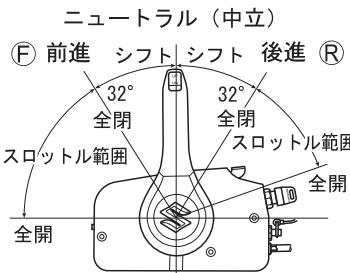
レバーをニュートラル（中立）位置から；

- 前側（船首側）に約 32 度倒すとクラッチがつながり、最低速度で前進します。
- 後側（船尾側）に約 32 度倒すとクラッチがつながり、最低速度で後進します。

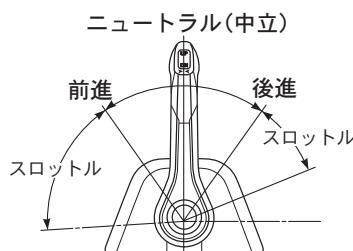
レバーを前進側・後進側にクラッチがつながった位置から、さらに倒すとスロットルが開きエンジンスピードが上がります。

レバーの倒しきれいによりエンジンスピードの調整をします。

サイドマウントタイプ



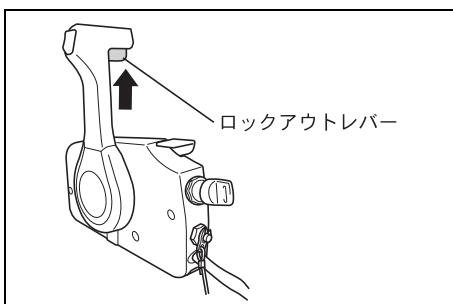
トップマウントタイプ



■ ロックアウトレバー

リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にロックするレバーです。

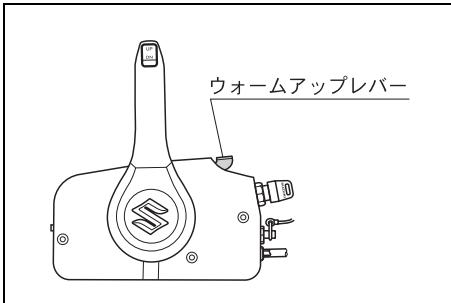
リモコンレバーを前進、後進に操作するときは、ロックアウトレバーを充分に引き上げてからリモコンレバーを各位置に倒してください。



■ウォームアップレバー

【サイドマウントタイプ】

- リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にしたまままでエンジン回転を調整するときに操作します。
- リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にし、ウォームアップレバーを上げるとスロットルが開き、エンジンスピードが上がり、下げるときスロットルが閉じます。



アドバイス

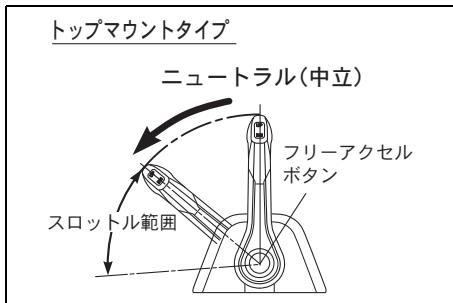
- ウォームアップレバーは、リモコンレバーがニュートラル（中立）の位置にあるときにのみ操作をすることができます。
- リモコンレバーは、ウォームアップレバーが最下位（全閉）の位置でないと、前進・後進に操作をすることできません。

■フリーアクセルボタン

【トップマウントタイプ】

クラッチをニュートラル（中立）の状態にしたまままで、エンジン回転を調整するときに操作します。

リモコンレバーがニュートラル（中立）のとき、フリーアクセルボタンを押した状態でリモコンレバーを前進側に約35度以上倒すとスロットルが開きエンジンスピードが上がり、戻すとスロットルが閉じます。



アドバイス

- フリーアクセルボタンは、リモコンレバーがニュートラル（中立）の位置にあるときにのみ操作をすることができます。
- フリーアクセルボタンは、リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置に戻すと自動的に戻り、通常の前進・後進のシフト操作ができるようになります。

■リモコンレバー操作力調整ノブ

⚠ 警 告

エンジン運転中の調整は、思いがけない事故につながるおそれがあります。リモコンレバーの操作重さの調整は、エンジン停止中に行ってください。

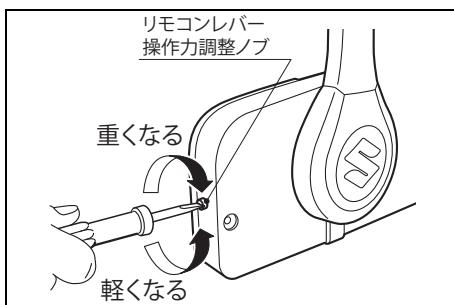
リモコンレバーを操作するときの重さを、操船者の好みに合わせ、調整するためのノブです。

▶ アドバイス

リモコンレバーを操作する時の重さは
 ・ノブを締め込むと重くなり、
 ・ノブを緩めると軽くなります。

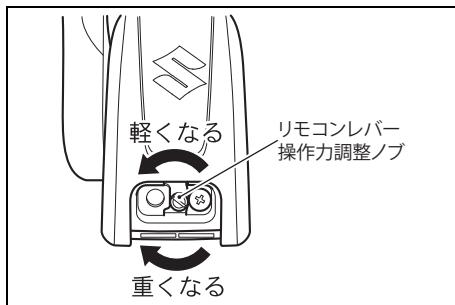
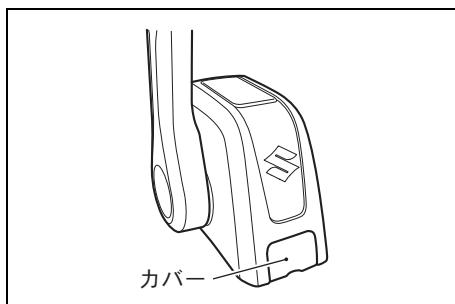
【サイドマウントタイプ】

リモートコントロールボックスの前側にあります。



【トップマウントタイプ】

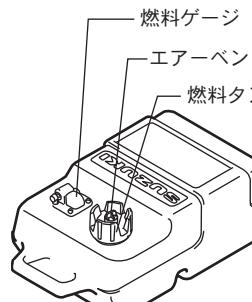
リモートコントロールボックスのカバーを取り外し、ノブで調整してください。



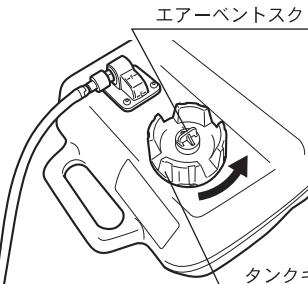
燃料タンク

▲ 警 告

一般用プラスチックタンクを燃料タンクとして使用すると、強度・材質の変化によりガソリンが漏れるおそれがあります。
燃料タンクは、スズキ純正部品を使用してください。それ以外を使用する場合は、日本小型船舶検査機構で認定されたものを使用してください。



燃料タンク



タンクキャップ

スズキ純正の燃料タンクは、以下の部品で構成されています。

■タンク本体

■燃料タンクキャップ

タンクの燃料給油口のふたです。給油をするときは、タンクキャップを左に回し、緩めて取り外します。給油後は、タンクキャップを給油口に確実に締め付けてください。

■エアーベントスクリュー

燃料タンクキャップにエアーベントスクリューが取り付けられています。スクリューを左に回し、緩めると、タンク内に外気が流入します。

▲ 警 告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。

- ・燃料タンクは、タンクに燃料を入れたままで、陸上運搬をしないでください。
- ・燃料タンクを持ち運ぶ場合は、燃料の漏れを防止するため、エアーベントスクリューを締め付けてください。

■燃料ゲージ

燃料タンク内の燃料の残量をおよそで表示します。

▲ 警 告

保管または係船時は燃料タンクを空にしておいてください。

燃料ホース

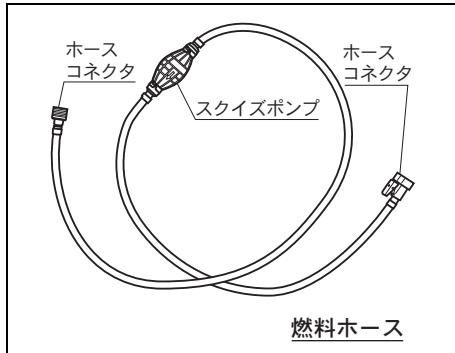
燃料ホースには、以下の部品が組み付けられています。

■ホースコネクタ

燃料タンクと船外機の間で燃料ホースを接続したり、はなしたりする部品です。

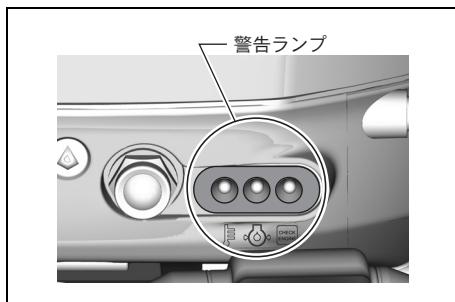
■スクイズポンプ

エンジンを始動するときにエンジン側の燃料系統の中に燃料を充満させるための手動ポンプです。



警告ランプ

警告機能の制御の作動を、ランプの点灯により表示し、操船者に知らせます。



アドバイス

警告ランプの点灯表示については、
「**6 モニターシステム**」の章を参照
してください。

6 モニターシステム

モニターシステムは、エンジンの運転状態を監視して操船者に知らせます。

▲ 警 告

警告の表示が出た場合、その原因の特定と解除をするためにエンジンを停止するときは、思いがけない事故を防ぐため天候や水面の状況が安全であることを確認し、その後に行ってください。

注 記

警告の表示が出ている状態で継続運転をすると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

航走中に警告の表示が出て、警告ランプが点灯したときは、天候や水面の状況が安全であることを確認した後、すみやかにエンジンを停止し、その原因の特定と解除のための処置をしてください。

表示の原因の特定とその処置ができないときは、スズキ取扱店にご相談ください。

この船外機には、エンジンオーバーレブ、オイルプレッシャー、エンジンオーバーヒートの警告機能とダイアグノーシス機能があります。

運転状態に異常が発生すると警告機能による制御が作動し、警告（赤）ランプを点灯させて操船者に知らせます。



次にそれぞれの警告機能による制御が作動したときの状態と、その解除方法を説明します。

▶ アドバイス

モニターシステムの警告表示機能にたよることなく、船外機を使用する前にオーナー・船長または操船者は、必ず日常（航走前）の点検を行ってください。

■ランプチェック／ブザーチェック 【ティラーハンドル仕様】

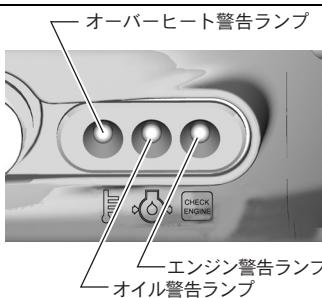
エンジン始動後、約2秒間、次の警告ランプが点灯します。

- ・オーバーヒート警告ランプ
- ・オイル警告ランプ
- ・エンジン警告ランプ

【リモートコントロール仕様】

イグニッションキーを“OFF”から“ON”にしたとき、約2秒間、次の警告ランプが点灯し、警告ブザーが鳴ります。

- ・オーバーヒート警告ランプ
- ・オイル警告ランプ
- ・エンジン警告ランプ



アドバイス

警告ランプが正常に点灯しないとき、または、ブザーが正常に鳴らない場合は、スズキ取扱店で点検を受けてください。

アドバイス

【リモートコントロール仕様】
警告ブザーは、イグニッションキーを“ON”にすると鳴り始め、2秒後に鳴り止みます。

オーバーレブ警告

オーバーレブ警告の制御は、次の場合に作動します。

- ・エンジンが次に示す回転数以上に過回転した場合。

DF25A	6100 r/min
DF30A	6400 r/min

オーバーレブ警告の制御が作動すると、次のようにになります。

- ・エンジン回転が規制され約3000回転付近まで自動的に下がります。(全仕様)
- ・警告ブザーが鳴ります。(リモートコントロール仕様のみ)
- ・エンジンが過回転した場合のオーバーレブ警告の制御を解除するには、スロットルを最低速度(トローリング回転)まで戻し、この回転で少なくとも4秒間運転してください。

アドバイス

- ・オーバーレブ警告の制御では、警告ランプは点灯しません。
- ・オーバーレブ警告の制御は、不適切なプロペラの使用、トリム角を大きく過ぎた場合などが原因で作動します。
- ・オーバーレブ警告の制御がたびたび作動するときは、スズキ取扱店にご相談ください。

アドバイス

【クラッチがニュートラルの時のオーバーレブ防止】
シフトレバーがニュートラル(中立)の場合、空ふかし等でエンジン回転が3000r/minを超えると、3000r/min付近に自動的に規制され、回転の状態が不安定になります。
(この回転規制では、警告ランプは点灯しません。)

オイルプレッシャー警告

オイルプレッシャー警告の制御は、運転中にエンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると作動して操船者に知らせます。

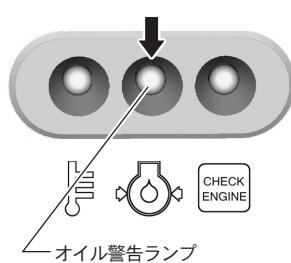
アドバイス

エンジンオイルの補給の必要性をオイルプレッシャー警告の表示機能にたよらないでください。

エンジンオイルの量は、出航前に目視で確認してください。

オイルプレッシャー警告の制御が作動すると次のようにになります。

- ・ オイル警告ランプ (⑤) が点灯します。
- ・ 警告ブザーが鳴ります。(リモートコントロール仕様のみ)
- ・ 航走スピード (エンジン回転) が 1000 回転以上のときは、エンジン回転が規制され、1000 回転付近まで自動的に下がります。
- ・ この警告システムの制御が作動し始めてから 3 分間経過すると、エンジンは自動的に止まります。



アドバイス

警告システムの制御によりエンジンが自動的に止まった場合、エンジンは再始動を試みれば始動することができます。しかし警告システムの制御は、制御が作動した原因が取り除かれるまで繰り返されます。

注記

オイル警告ランプ (⑤) が点灯したままでエンジンの運転を続けるとエンジンが損傷するおそれがあります。警告ランプが点灯したときは、天候や水面の状況が安全であることを確認した後、すみやかにエンジンを停止してください。

警告

エンジンカバーなしで運転すると、手、髪や衣服などが回転体にふれ、ケガをするおそれがあります。

運転中は、エンジンカバーを取り外さないでください。

オイルプレッシャー警告の制御の作動を解除するには、次の要領でエンジンオイルの量の点検をしてください。

1. 天候や水面の状況が安全であることを確認した後、すみやかにエンジンを停止し、エンジンオイルの量を点検してください。
2. エンジンオイルの量が規定のレベルより低い場合は、エンジンオイルを規定のレベルまで補給してください。

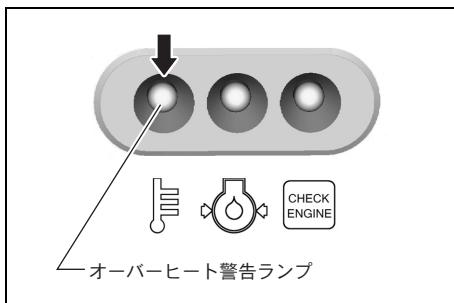
点検の結果、エンジンオイルが適正なレベルにある場合は、スズキ取扱店にご相談ください。

オーバーヒート警告

オーバーヒート警告の制御は、運転中にエンジンの冷却が不十分になり、エンジンの温度が正常より熱くなると（オーバーヒートすると）、作動します。

オーバーヒート警告の制御が作動すると次のようになります。

- ・オーバーヒート警告ランプ（）が点灯します。
- ・警告ブザーが鳴ります。（リモートコントロール仕様のみ）
- ・航走スピード（エンジン回転）が3000回転以上のときは、エンジン回転が規制され、3000回転付近まで自動的に下がります。
- ・この警告システムの制御が作動し始めてから3分間経過すると、エンジンは自動的に止まります。



アドバイス

警告システムの制御によりエンジンが自動的に止まった場合、エンジンは再始動を試みれば始動することができます。しかし警告システムの制御は、制御が作動した原因が取り除かれるまで繰り返されます。

オーバーヒート警告の制御を解除するには、次の要領で冷却系統の点検をしてください。

1. すみやかにシフトレバー、またはリモコンレバーをニュートラル（中立）位置にしてください。
2. 檢水口からの排水を確認してください。

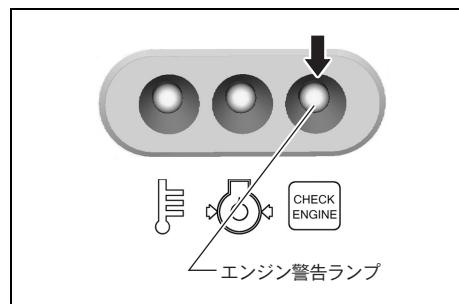
3. もし排水がなければ天候や水面の状況が安全であることを確認した後、エンジンを停止させてください。
4. ギヤケースにある吸水口がビニールや海藻などで覆われていないかを点検し、取り除いてください。
5. エンジンを再始動し、検水口からの排水と警告ランプの消灯を確認してください。

点検の結果、依然として検水口から冷却水の排水がなく、警告ランプが消えないときは、冷却系統の点検をスズキ取扱店に依頼してください。

ダイアグノーシス

ダイアグノーシスは、エンジンの電子制御システムに異常があると、その異常箇所を、次のように表示して操船者に知らせます。

- ・エンジン警告ランプ（CHECK ENGINE）が点滅します。
- ・警告ブザーが鳴ります。（リモートコントロール仕様のみ）



アドバイス

- エンジン警告ランプ (CHECK ENGINE) の点滅のパターンは異常箇所により異なります。
- ダイアグノーシス表示により、エンジン警告ランプ (CHECK ENGINE) が点滅したときは、すみやかにスズキ取扱店で点検を受けてください。

[ティラーハンドル仕様]

- エンジン警告ランプ (CHECK ENGINE) の点滅は、エンジン運転時のみです。
- エンジン警告ランプ (CHECK ENGINE) は、エンジン始動装置を操作すると、その時から約2秒間点灯し、その後消灯するのが正常です。

[リモートコントロール仕様]

- エンジン警告ランプ (CHECK ENGINE) の点滅は、エンジンの運転・停止にかかわらず、イグニッションキーが「ON」のときに行われます。
- エンジン警告ランプ (CHECK ENGINE) は、イグニッションキーを「OFF」から「ON」にしたとき、約2秒間点灯し、その後消灯するのが正常です。
- ダイアグノーシス表示による警告ブザーの吹鳴は、異常が発生した時から約30秒経過すると鳴らなくなります。

運転時間表示

■オイルチェンジリマインダーシステム (エンジンオイル交換時期お知らせ機能)

アドバイス

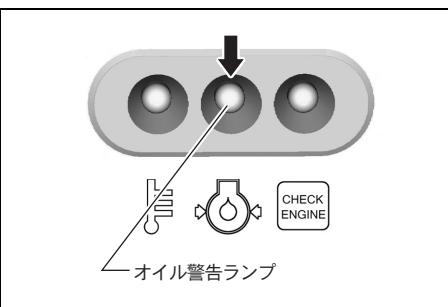
- 「オイルチェンジリマインダーシステム」は、操船者にエンジンオイル交換を促すための機能です。
- エンジンオイルは、日常点検を必ず行い、汚れ、劣化、変色が著しい場合は、早めに交換をしてください。

表示機能の作動

エンジン運転時間が100時間に到達する毎に、「オイルチェンジリマインダーシステム」の機能の働きにより、次の表示がされ、操船者に知らせます。

[ティラーハンドル仕様]

- オイル警告ランプ (Ⓐ) が点滅します。



アドバイス

- 新機を使用し始めてから、運転時間が20時間に到達した時に、この表示機能が特別に働き、オイル警告ランプ (Ⓐ) が点滅します。
- オイル警告ランプ (Ⓐ) の点滅は、エンジン運転時のみです。

・表示のキャンセル

この表示のキャンセルは、次の操作することにより行ってください。

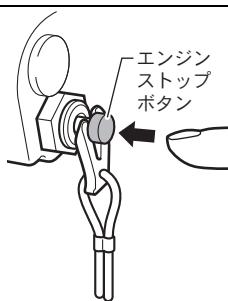
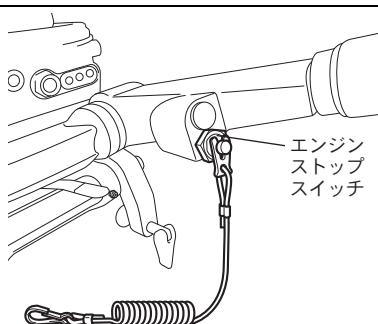
- (1) エンジンを始動してください。
シフトレバーをニュートラル（中立）位置にし、スロットルコントロールグリップを全閉にしてください。

アドバイス

エンジンストップボタンを0.5秒以上継続して押すとエンジンが止まります。

- (2) エンジンストップボタンをエンジンが止まらないように、4秒以内に3回押してください。

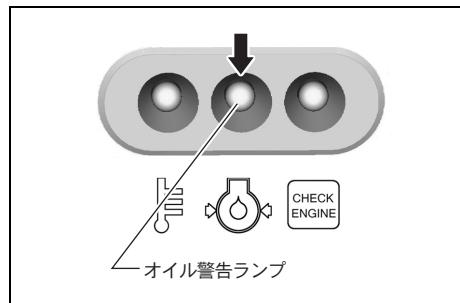
オイル警告ランプ（）が点滅しなくなれば、表示のキャンセルは完了です。



- (3) エンジンを停止してください。

【リモートコントロール仕様】

- ・オイル警告ランプ（）が点滅します。
- ・エンジン始動後、警告ブザーが鳴ります。ブザーの吹鳴は、エンジン始動後、約30秒経過すると鳴らなくなります。



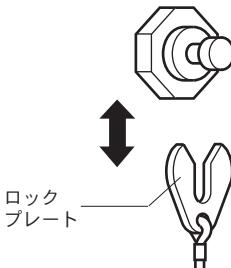
アドバイス

新機を使用し始めてから、運転時間が20時間に到達した時に、この表示機能が特別に働き、オイル警告ランプ（）が点滅します。

・表示のキャンセル

この表示のキャンセルは、次の操作することにより行ってください。

- (1) リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にしてください。
エンジンを一度止め、イグニッションキーを“ON”的位置にしてください。
- (2) ロックプレートを、エマージェンシースイッチから抜き、次に差し込んでください。
このロックプレートの「抜いて・差し込む」操作を4秒以内に3回行ってください。（4秒以内に3回、エマージェンシースイッチを“ON”“OFF”させる。）



- (3) イグニッションキーを “OFF” にしてください。
ロックプレートをエマージェンシースイッチの元の位置に差し込んでください。

▶ アドバイス

- ・キャンセル作業が正常に終了した場合は、ブザーが約2秒間鳴ります。
- ・100時間運転表示のキャンセルが確実に行われないと、オイル警告ランプ(⑤)の点滅が継続します。
- ・キャンセルが確実にできなかつた場合は、キャンセルの作業をやり直してください。

▶ アドバイス

- ・運転時間は、キャンセル作業をすると、0(ゼロ)にリセットされ、新たに次の100時間に向けてカウントを開始します。
- ・エンジンオイルを交換するときは、運転時間を0(ゼロ)にリセットしてください。

エンジンストールお知らせ機能 (リモートコントロール仕様)

エンジン運転中にエンジンが止まると、それを操船者に知らせる機能です。

エンジン運転中に何らかの理由でエンジンが止まった場合、ブザーが3回鳴ります。

7 船外機の取付け

船外機の取付け

▲ 警 告

- ・ボートのオーバーパワーは、操縦が不安定になり転覆等のおそれがあります。
- ・指定最大出力を超えるエンジンの搭載は、しないでください。
- ・船外機や装備品等のボートへの適切でない取付けは、操船不能や船外機・ボートに損傷を招き、その結果、人身事故に至るおそれがあります。

アドバイス

ボートの仕様により、船外機の取付け方法が本書の説明と一致しない場合があります。
不明な点については、スズキ特約店またはスズキ販売店に問い合わせ、取付けの指導を受けてください。

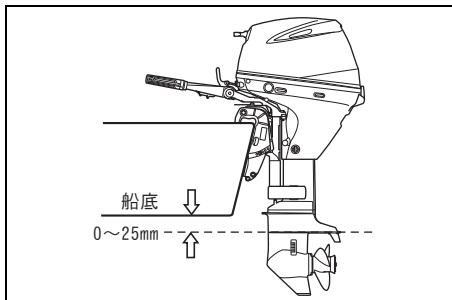
船外機および装備品の不適当な取付けは、エンジン性能を充分に發揮させることができません。
船外機の持つ性能を完全に引き出すために、船外機は、ボートに正しく取り付けなければなりません。

船外機のボートへの取付けは、次の手順で行ってください。

【ティラーハンドル仕様】

■取付け高さ

船外機のアンチキャビテーションプレートが船底より0~25mm下になるように寸法を合わせ、トランサムに取り付けてください。



注 記

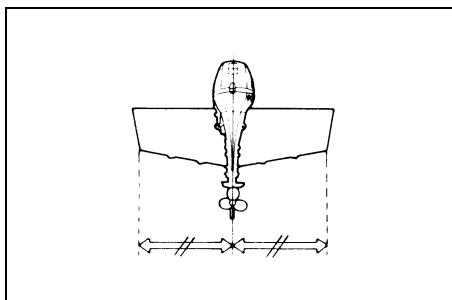
船外機の取付け位置が高過ぎるとプロペラがスリップしたり、エンジンがオーバーヒートをする原因になります。

反対に低過ぎると水中での抵抗が増し、スピードの低下、多量のスプレー上がりの原因になります。

ボートの試走を行い、最適な取付け高さとなるように調整してください。

■取付け位置

船外機は、ボートのトランサムの垂直中心線と船外機の中心が一致するように取り付けてください。



■ トランサムへの固定

▲ 警 告

船外機の取付けが不完全だと、航行中、船外機を水中に落とすことがあります。

クランプスクリュー、ボルトは確実に締め付け、定期的に緩みがないか点検してください。

▲ 警 告

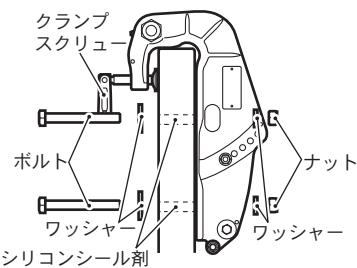
船外機のボートへの適切でない取付けは、操船不能や船外機・ボートに損傷を招くことがあります。

船外機をボートに取り付けた後、ステアリングの操作やチルトの上げ下げが艤装品等により阻害されることなく

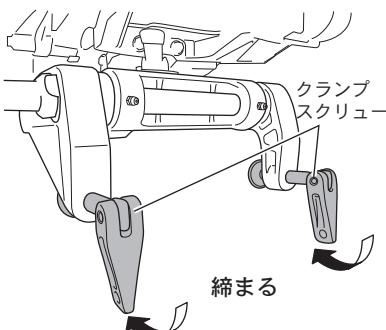
確実にできることを確認してください。

②、クランプスクリューに緩みがあると、航行中、船外機を水中に落とすことがあります。

船外機の脱落を防止するために、クランプブラケットを4本のボルトとワッシャー、ナットでトランサムに締め付けてください。出航前にボルト・ナットの締め付けに緩みがないかを点検してください。



- ①、クランプスクリューを回して、船外機をトランサムに固定してください。
クランプスクリューは、確実に締め付けてください。
出航前にクランプスクリューの締め付けに緩みがないかを点検してください。



注 記

- ・技術的な知識や経験を持たずにトランサムにボルトを通す穴を開ける作業を行なうと、ボートに損傷を与えることがあります。ボルト穴を開けるために適切な道具、技術的に自信がない場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店にこの作業を依頼してください。
- ・トランサムに開けたボルト穴には、水の浸入を防止するために、シリコンシール剤を塗布してください。

【リモートコントロール仕様】

船外機、リモートコントロール装置、メーター、その他の艤装品などを正しくボートに取り付けるためには、適切な工具、設備と確かな技術および経験が必要です。

船外機、コントロール装置などの取付けは、スズキ取扱店に依頼してください。

▲ 警 告

船外機、リモートコントロール装置、メーターのボートへの適切でない取付けは、操船不能や船外機・ボートに損傷を招くおそれがあります。

船外機、リモートコントロール装置、メーターの取付けは、スズキ取扱店に依頼してください。

8 バッテリー

(電動スター仕様)

推奨バッテリー

バッテリーは、以下の容量のものを使用することを推奨します。

推奨バッテリー :

12V 64Ah/5 時間率
(JIS 規格 : 95D31) 以上

▲ 注意

バッテリーには、バッテリー使用上の警告ラベルが貼られています。
使用前に警告ラベルをよく読んでください。

バッテリーの取付け

▲ 警 告

- ・バッテリーは、引火性のガスを発生し、引火爆発のおそれがあります。バッテリー付近では、火気を絶対に使用しないでください。
- ・バッテリーの火花がガソリンに引火すると、爆発のおそれがあります。
バッテリー付近には、ガソリンの入った容器を置かないでください。

バッテリーは、水しぶき等がかかるない場所に収納し、航走中に倒れたりしないようにバッテリーバンド等で艇体に確実に固定してください。

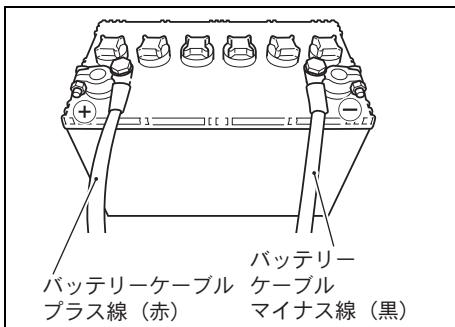
バッテリーケーブルの接続

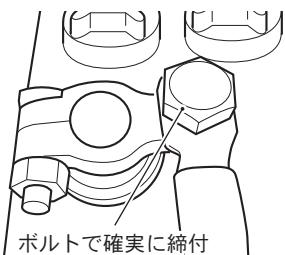
注 記

- ・バッテリーケーブルのバッテリーへの接続手順、接続極を間違えると、電装部品の損傷を招きます。ケーブルはバッテリーに正しく接続してください。
- ・バッテリーにバッテリーケーブルを接続したり取り外したりするときは、イグニッションスイッチ（キー）を“OFF”「切」にしてから行ってください。
(リモートコントロール仕様)
- ・エンジン運転中にバッテリーケーブルをバッテリーから取り外さないでください。
電装部品が損傷することがあります。

バッテリーケーブルのバッテリーへの接続は、次の手順で行ってください。

1. イグニッションスイッチ（キー）を“OFF”「切」にしてください。(リモートコントロール仕様)
2. プラス（赤）バッテリーケーブルを最初にバッテリーのプラス（+）端子に接続してください。
3. 次にマイナス（黒）バッテリーケーブルをバッテリーのマイナス（-）端子に接続してください。





バッテリーケーブルの取外し

バッテリーケーブルのバッテリーからの取外しは、イグニッションスイッチ（キー）を“OFF”「切」にしてから、接続の逆の手順で行ってください。

アドバイス

バッテリーケーブルのバッテリー端子への締付けに緩みがあると、エンジン制御システムの作動不良を招きます。

- ・バッテリー端子は、ボルトで締め付けるタイプを用い
- ・バッテリーケーブル端子は、バッテリー端子にナットで確実に締め付け
- ・定期的に締め付けに緩みがないことを確認してください。

アドバイス

バッテリー端子の偶発的なショートを防ぐために、プラスバッテリー端子に絶縁カバーを取付けてください。絶縁カバーが必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談ください。

9 燃料給油

▲ 警 告

気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。

ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

▲ 警 告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。

燃料タンク等への給油時には、

- ・エンジンを停止してください。
- ・風通しの良い所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないでください。
- ・ポータブル燃料タンクへの給油は、タンクを船外におろして行ってください。
- ・燃料タンクには、満タンに給油しないでください。

満タンにすると温度上昇時に膨張し、燃料があふれでるおそれがあります。

燃料タンクへの給油

1. 燃料タンクキャップを左に回して取り外してください。
2. 給油口から無鉛レギュラーガソリンを給油してください。
3. 給油し終わったら燃料タンクキャップを右に回してタンクの給油口に確実に締め付けてください。

燃料タンク
容量

「20 仕様諸元」の章
を参照してください。



10 日常点検

日常点検（出航前の点検）は、船外機を使用する前に行う点検です。

▲ 警 告

オーナー（船長）は乗船者の安全を確保するため、船外機を使用する前に日常点検を行ってください。

点検の結果、異常が認められた場合は、ご自身またはスズキ取扱店で確実に整備し、不備がないことを確認してからお使いください。

次に示す各項目を入念に点検してください。

点検の結果、異常をみつけたら、その部分は必ず確実に整備し、不備がないことを確認してからお使いください。

燃料／燃料系統

- ・航行計画に対し、燃料タンクに燃料が充分に入っているかを点検してください。
- ・燃料タンク／ホース等の燃料系統から燃料漏れをしている所がないかを点検してください。
- ・燃料ホースの接続に緩みがなく、漏れを発生している箇所がないことを確認してください。

取付け状態

- ・船外機の取付ボルトに緩みがなく、確実に締め付けられているかを点検してください。
- ・クランプスクリューに緩みがなく、確実に締め付けられているかを点検してください。
- ・チルトピンが適正な位置に取り付けられていることを確認してください。

エンジンオイル

- ・エンジンオイルの量が、オイルレベルゲージに示された範囲内にあるかを点検してください。

下限に近い場合は、上限まで補給してください。

- ・エンジンオイルの汚れを点検してください。

汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。

・エンジンオイル量／汚れの点検：

「**16 簡単な点検・整備**」の章、エンジンオイルの項を参照してください。

リコイルスター

- ・リコイルスターのロープに損傷がないかを点検してください。

プロペラ

- ・プロペラに曲がり、欠け、損傷がないかを点検してください。
- ・プロペラナットのコッタピンが正しく取り付けられており、損傷がないことを確認してください。

リモートコントロール／操縦装置

- ・シフト、スロットル、ステアリングの各操作が確実にできることを確認してください。

バッテリー

- ・バッテリー液の量は適正か、バッテリータミナル部分は確実に締め付けられているかを点検してください。

スイッチ

- ・全てのスイッチが確実に機能し、電気系統の装置が作動することを確認してください。
- ・エマージェンシーストップスイッチが正しく機能することを確認してください。

常備品

- ・サービス工具、スペアパーツなどの常備品が船内にあることを確認してください。
(付属工具、プロペラの交換ができる工具、緊急エンジン始動ロープ、予備プロペラ、予備スパークプラグ、予備燃料など。)

ボルト／ナット

- ・各部を締め付けているボルト／ナットに緩みがないかを点検してください。

エンジン

- ・エンジンが速やかに始動し、円滑に回転するかを点検してください。
- ・運転中にエンジンから異音の発生がないか、冷却水が排出されているかを点検してください。

冷却系統

- ・吸水口に異物が詰まっていないかを点検してください。

11 ならし運転

新しい船外機は、エンジンを高回転（高負荷）で使用する前、次に示す時間をかけて、ならし運転を行う必要があります。

ならし運転を正しく行うことにより新品の各摺動部品に良好なあたりがつきます。これをすることにより、船外機が持ち前の性能を充分に發揮し、船外機の寿命も延ばすことができます。

ならし運転時間； 10 時間

ならし運転は、次に説明する要領で行ってください。

注 記

ならし運転を正しく行わないとエンジンに早期の損傷を招くおそれがあります。

■暖機運転

暖機運転を 5 分以上の時間をかけて、必ず行ってください。

■スロットル開度（エンジン回転数）

1. 最初の 2 時間

クラッチを入れ、15 分間は最低速で運転してください。その後の 1 時間 45 分間は、徐々に加速させ、スロットル開度を $1/2$ 程度まで上げ、 $1/2$ 開度以下の範囲で運転してください。

アドバイス

ボートを滑走させるためには推奨スロットル開度を超えてかまいませんが、滑走をしたら速やかに推奨スロットル開度に戻してください。

2. 次の 1 時間

徐々に加速させ、スロットル開度を $3/4$ 程度まで上げ、この開度以下で運転してください。

スロットルを全開にして航走しないでください。

3. 最後の 7 時間

好みのスピードで航走し、5 分間を超えない範囲で時々スロットルを全開にして航走してください。

アドバイス

- ならし運転期間の最後の 7 時間ににおいては、スロットルを全開にして航走してもかまいませんが、連続して 5 分間以上は全開を持続させないでください。

- 指示されたスロットル開度の範囲内でエンジン回転を変えながら航走することが船外機にとって良いならし運転の方法です。

- ならし運転の期間中は、過大な負荷をかけることを避け、推奨開度以下でご使用ください。

12 運転・操作

エンジン始動

▲ 警 告

- ・排気ガスは、一酸化炭素を含んでおり、中毒をひきおこすおそれがあります。
- ・ポートハウスなど閉め切った所では、エンジンをかけたままにしないでください。
- ・エンジンカバーなしで運転すると、フライホイール等に触れるなど、けがをするおそれがあります。
- ・エンジンカバーを取り外したまま運転しないでください。

■ エンジン始動要領

▲ 警 告

遊泳者がボート、船外機のプロペラに接触すると、重大な傷害につながるおそれがあります。

エンジンを始動する前に、ボートの周辺に障害物等がなく、また、遊泳者等がないことを確かめてください。

▲ 警 告

エンジンストップスイッチコードを付けずに落水した場合、エンジンが停止せず暴走するおそれがあります。

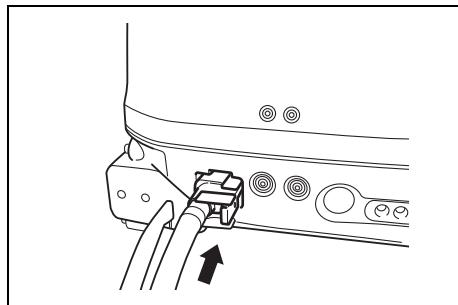
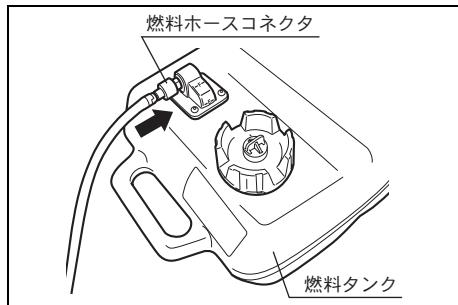
運転中は、エンジンストップスイッチコードを身体の一部に必ず付けてください。

注 記

この船外機は水冷式のため、冷却水がないとエンジンオーバーヒートを招きます。また、ウォーターポンプが損傷します。

陸上で冷却水がない状態で運転しないでください。

1. 船外機のギヤケース部（アンチキャビテーションプレート）を完全に水中に入れてください。
2. 燃料タンクに燃料が充分にあることを確認してください。
3. 燃料ホースコネクタを燃料タンクと船外機に接続してください。



注 記

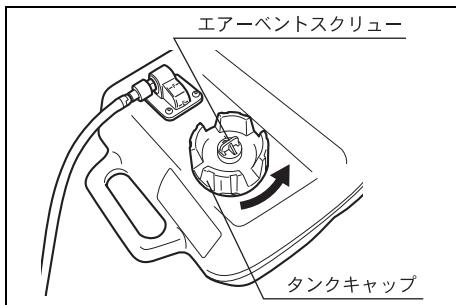
こぼれた燃料をそのまま放置すると塗装のしみ、変色などの原因となります。

こぼれた燃料は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。

▶ アドバイス

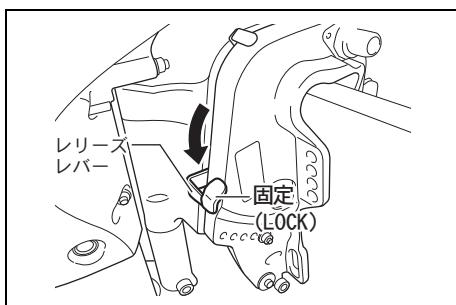
燃料ホースは、折れ曲がりがないよう適切に取り回してください。

4. 燃料タンクキャップにあるエアーベントスクリューを左に回して、緩めてください。



5. ティラーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)

レリーズレバーを「固定 (LOCK)」の位置にしてください。

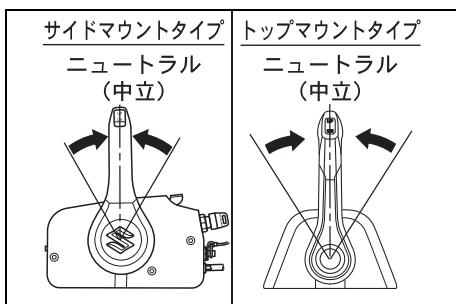


6. リモートコントロール仕様

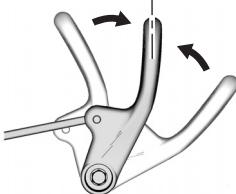
・リモコンレバーをニュートラル（中立）位置にしてください。

ティラーハンドル仕様

・シフトレバーをニュートラル（中立）位置にしてください。



ティラーハンドル仕様
ニュートラル
(中立)

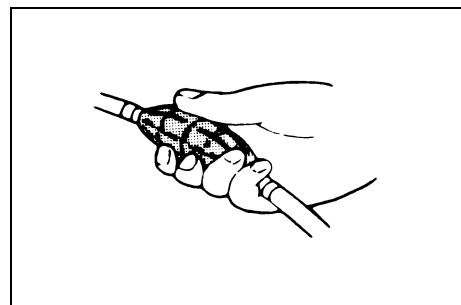


アドバイス

リモコンレバー、またはシフトレバーがニュートラル（中立）位置でないと、始動安全装置が働き、始動できません。

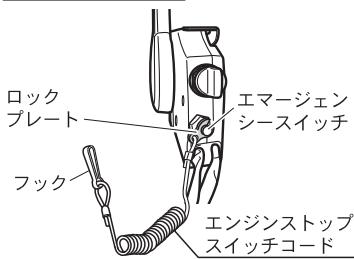
（スターターモーターが回りません。
ノリコイルスターターグリップを引き出すことができません。）

7. スクイズポンプを握ったり、離したりして、ポンプが固くなるまで、この動作を繰り返してください。

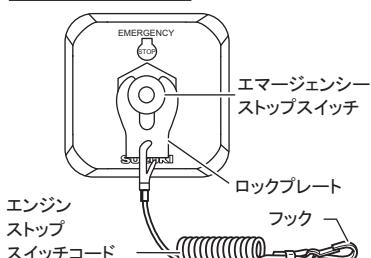


8. エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを差し込み、エンジンストップスイッチコードの一端を操船者の身体の一部（手、足、衣服等）に付けてください。

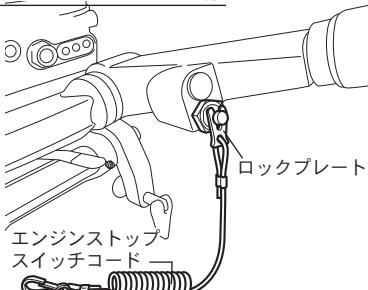
サイドマウントタイプ



トップマウントタイプ



ティラーハンドル仕様



アドバイス

新機を最初に使用する場合、長期間使用しないでその後使用されるときは、次の手順に従ってください。

- ①、スクイズポンプを握ったり、離したりして、ポンプが固くなるまで繰り返してください。
- ②、エマージェンシーストップスイッチにロックプレートを差し込み、エンジンストップスイッチコードの一端を操船者の身体の一部に付けてください。
- ③、リコイルスターターグリップを数回、勢いよく引くか、または、電動スターを回し、エンジン配管内に燃料を満たしてください。その後、通常のエンジン始動を行ってください。

9-1. ティラーハンドル仕様

スロットルコントロールグリップを最低速（スロットル全閉）の位置にしてください。

低速

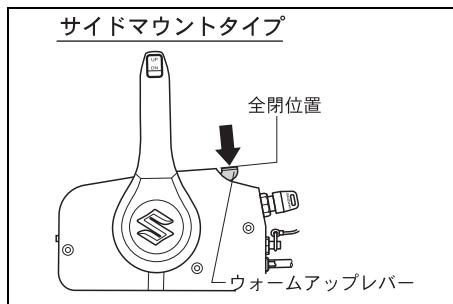
高速

スロットルコントロール
グリップ

9-2. リモートコントロール仕様

【サイドマウントタイプ】

- ウォームアップレバーを“全閉”の位置にしてください。

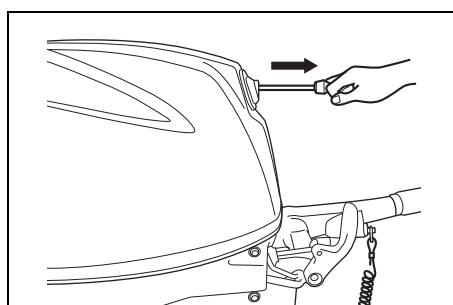


10-1. ティラーハンドル・手動スターター仕様

リコイルスターターグリップを握り、抵抗を感じるところまでゆっくりと引き出し、そこから勢いよく引いてください。

リコイルスターターグリップをゆっくりと戻してください。

エンジンが始動するまで、この操作を繰り返してください。



注記

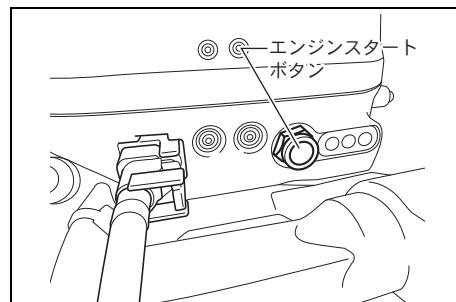
手動スターター装置の損傷を防止するため、

- エンジン始動後は、リコイルスターターグリップを引き出さないでください。
- リコイルスターターグリップは、ゆっくりと、静かに戻してください。
- リコイルスターターグリップは、限界以上に引き出さないでください。

10-2. ティラーハンドル・電動スターター仕様

エンジンスタートボタンを押し、エンジンを始動させてください。

エンジンが始動したら、ボタンから指を離してください。



注記

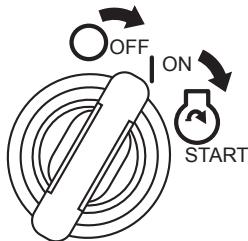
- バッテリー上がりを防ぐために、スターターモーターは連続して5秒以上回さないでください。5秒以内にエンジンが始動しないときは、スタートボタンから一旦指を離し、10秒後に再び押してください。

- エンジン運転中には、エンジンスタートボタンを押さないでください。

10-3. リモートコントロール仕様

- ・イグニッションキーを“ON”の位置に回してください。
- ・イグニッションキーを“ON”から“START”的位置に回してください。
スターターモーターが回りエンジンが始動します。

トップマウントタイプ



アドバイス

- ・イグニッションキーを“ON”にすると警告ブザーが鳴り始めます。
- ・警告ブザーは、イグニッションキーを“ON”にしたとき約2秒間鳴り、その後鳴り止むのが正常です。

- ・エンジンが始動したら、イグニッションキーから指を離してください。
イグニッションキーは、自動的に“ON”的位置に戻ります。

注記

- ・バッテリー上がりを防ぐために、スターターモーターは連続して5秒以上回さないでください。
5秒以内にエンジンが始動しないときは、イグニッションキーから一旦指を離し、10秒後に再び押してください。
- ・エンジン運転中には、イグニッションキーを“START”位置に回さないでください。

- 11. エンジンが始動したら、暖機運転を数分間行ってください。

注記

エンジン始動後、十分な暖機運転をしないでスロットルを全開にして航走すると、エンジン故障の原因となります。

エンジン始動後、高速で運転する前に十分な暖機運転をしてください。

アドバイス

クラッチがニュートラル時のエンジン回転制御について：

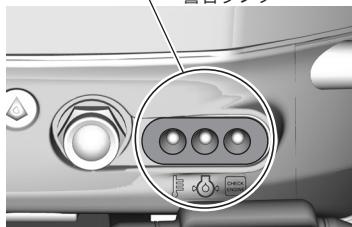
- ・空ふかし等でスロットルを開けすぎないでください。
 - ・エンジン回転は3000r/minを超えると
 - ・3000r/min付近に自動的に規制され
 - ・回転の状態が不安定になります。
- [「**6 モニターシステム**」の章、オーバーレブ警告の項を参照してください。]

注記

警告ランプが点灯したままエンジンの運転を続けると、エンジンが損傷するおそれがあります。

エンジン運転中に警告ランプが点灯したときは、すみやかにエンジンを止めてください。

警告ランプ



12. 警告ランプが消えていることを確認してください。

アドバイス

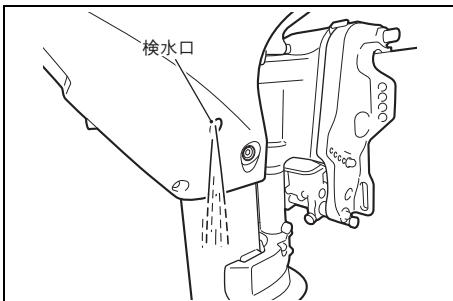
- 警告ランプは、エンジン始動装置を操作する、または、イグニッションキーを「OFF」から「ON」にすると、その時から2秒間点灯し、消えるのが正常です。
- エンジン始動装置を操作したとき、または、イグニッションキーを「OFF」から「ON」にしたときに警告ランプが点灯しない場合は、スズキ取扱店で点検を受けてください。

■検水

エンジン始動後、検水口から冷却水が排出されていることを確認してください。冷却水の排出がない場合は、直ちにエンジンを停止し、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談ください。

注記

冷却水の排出がない状態でエンジンを運転すると、エンジンがオーバーヒートし、その結果エンジンに重大な損傷を招きます。
冷却水の排出がない場合は、エンジンを停止し、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談ください。



シフト操作・スピードコントロール〈ティラーハンドル仕様(DF25AQH/30AQH/30ATH)〉

▲警告

遊泳者がボート、船外機のプロペラに接触すると、重大な傷害につながるおそれがあります。

シフト操作をする前に、ボートの周辺に障害物等がなく、また、遊泳者等がないことを確かめてください。

注記

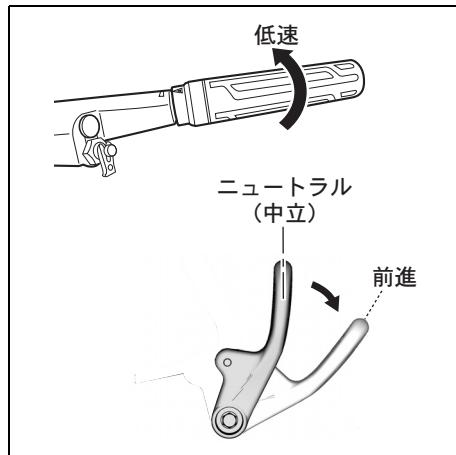
エンジンが高回転時のシフト操作は、急加減速による同乗者の転倒やクラッチ・ギヤ等の損傷のおそれがあります。エンジンを最低回転にしてシフトしてください。

前進・後進のシフト操作、スピードコントロールは、以下の要領で行ってください。

■前進

前進側にシフトするときは；

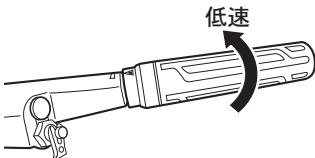
1. スロットルコントロールグリップをスロットル全閉の状態（最低速）に戻してください。
2. シフトレバーをすみやかに前進側へ倒してください。



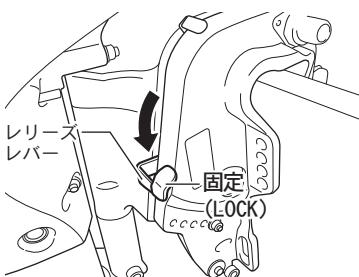
■後進

後進側にシフトするときは；

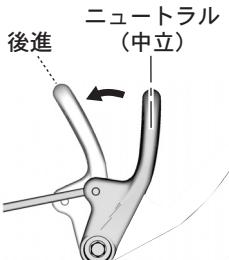
1. スロットルコントロールグリップをスロットル全閉の状態（最低速）に戻してください。



2. レリーズレバーを「固定（LOCK）」の位置にしてください。（ティラーハンドル仕様（DF25AQH/30AQH））



3. シフトレバーをすみやかに後進側へ倒してください。



■スピードコントロール

⚠ 警告

後進をするとき、エンジン回転を上げ過ぎるとボートが不安定になり操船に支障をきたし、事故につながるおそれがあります。

後進のスピードは、必要最低限におさえ、ゆっくりと後進するようにコントロールしてください。

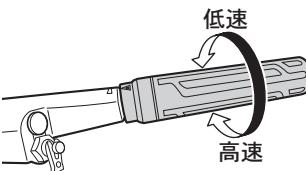
エンジン回転を必要以上に上げないでください。

⚠ 注意

急加減速は、同乗者の転倒を招くおそれがあります。

スロットルコントロールグリップは、急激に回したりしないで徐々に回してください。

- ・スピードコントロールは、前進または後進にシフトされた後、スロットルコントロールグリップの回しかげんにより行ってください。



シフト操作・スピードコントロール (リモートコントロール仕様 (DF30AT))

⚠ 警告

遊泳者がボート、船外機のプロペラに接触すると、重大な傷害につながるおそれがあります。

シフト操作をする前に、ボートの周辺に障害物等がなく、また、遊泳者等がないことを確かめてください。

注記

エンジンが高回転時のシフト操作は、急加減速による同乗者の転倒やクラッチ・ギヤ等の損傷のおそれがあります。エンジンを最低回転にしてシフトしてください。

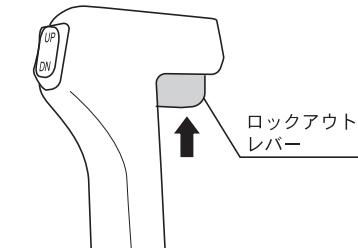
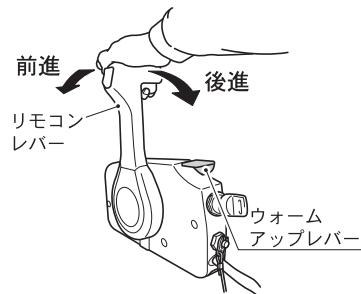
前進・後進のシフト操作、スピードコントロールは、以下の要領で行ってください。

アドバイス

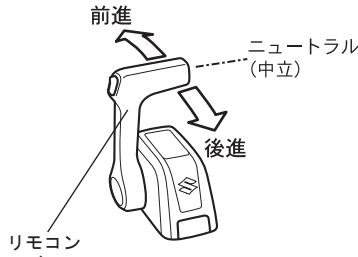
【サイドマウントタイプリモコン】

- リモコンレバーは、ウォームアップレバーが最下位の位置にセットされていないと、操作をすることができません。リモコンレバーを前進・後進に操作する前に、ウォームアップレバーが最下位（スロットル全閉）の位置にあることを確認してください。

サイドマウントタイプ



トップマウントタイプ



■前進・後進のシフト操作

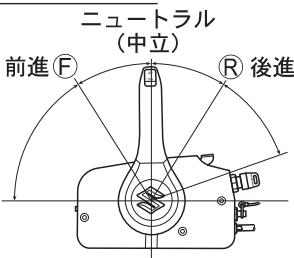
前進側にシフトするときは；

リモコンレバーを握り、リモコンレバーにあるロックアウトレバー（装備されている場合）を充分に引き上げ、リモコンレバーをすみやかに前進側 (F) 位置に倒してください。

後進側にシフトするときは；

リモコンレバーを握り、リモコンレバーにあるロックアウトレバー（装備されている場合）を充分に引き上げ、リモコンレバーをすみやかに後進側 (R) 位置に倒してください。

サイドマウントタイプ



■スピードコントロール

▲ 警 告

後進をするとき、エンジン回転を上げ過ぎるとボートが不安定になり操船に支障をきたし、事故につながるおそれがあります。

後進のスピードは、必要最低限におさえ、ゆっくりと後進するようにコントロールしてください。

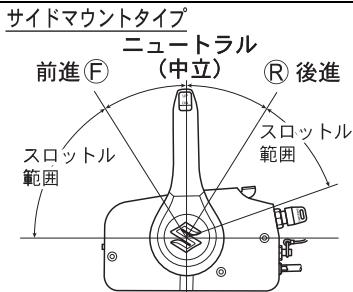
エンジン回転を必要以上に上げないでください。

▲ 注意

急加減速は、同乗者の転倒を招くおそれがあります。

リモコンレバーは、スロットル範囲では、急激に倒したり、戻したりしないでゆっくりと操作してください。

- スピードは、前進または後進にシフトされた後、リモコンレバーをさらに倒すと增速します。
- リモコンレバーの倒しかげんでボートのスピードを調整してください。



エンジン停止

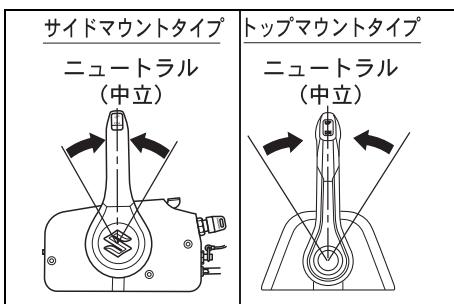
エンジンを停止させる場合は、次の要領で行ってください。

アドバイス

緊急にエンジンを停止しなければならない場合は、エンジンストップスイッチコードを引っ張り、エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを引き抜いてください。

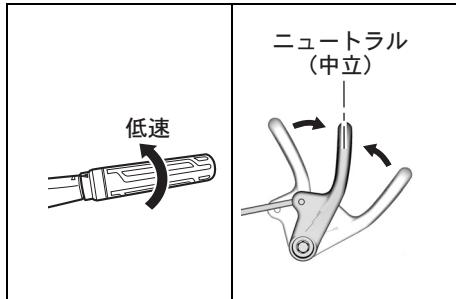
1. リモートコントロール仕様

- リモコンレバーをニュートラル（中立）の位置にしてください。



ティラーハンドル仕様

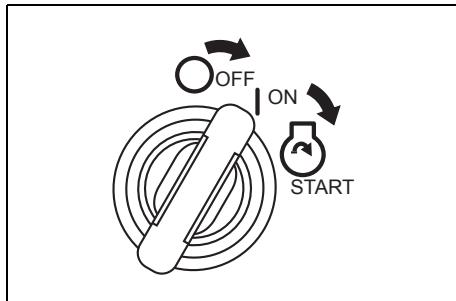
- (1) スロットルコントロールグリップをスロットル全閉（最低速）の状態まで戻してください。
- (2) シフトレバーをニュートラル（中立）の位置にしてください。



2. 2～3分間、アイドリング（無負荷最低速回転）でエンジンを運転してください。

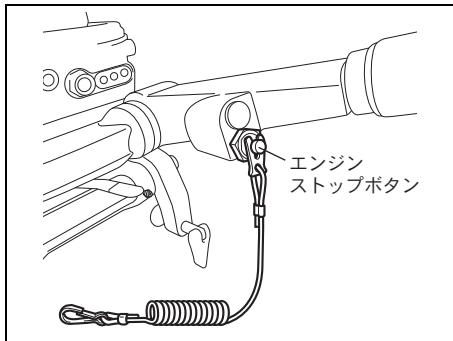
3. リモートコントロール仕様

イグニッションキーを“OFF”の位置に回してください。



ティラーハンドル仕様

エンジンストップボタンをエンジンが止まるまで押し続けてください。



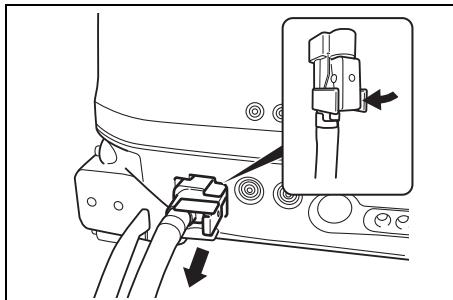
4. リモートコントロール仕様

イグニッションキーをスイッチから抜いてください。

アドバイス

船外機を使用しない場合は、イグニッションキーをスイッチから抜いておいてください。

5. 燃料ホースコネクタの接続を船外機から外してください。



注記

こぼれた燃料をそのまま放置すると塗装のしみ、変色などの原因となります。

こぼれた燃料は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。

チルトアップ/ダウン <ティラーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)>

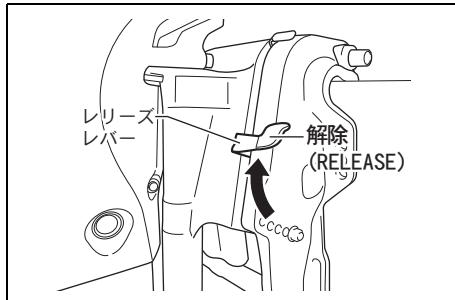
注記

- エンジンが運転されている状態でチルトアップ/ダウンの操作をすると、エンジンがオーバーヒートし、損傷を招きます。チルトアップ/ダウンの操作は、エンジンを停止した後に行ってください。
- 船外機のチルトアップ/ダウンの操作を行うときに、ティラーハンドルを押し下げないでください。ティラーハンドルに損傷を招くことがあります。チルトアップ/ダウンの操作は、チルトアップハンドルに手をかけて行ってください。

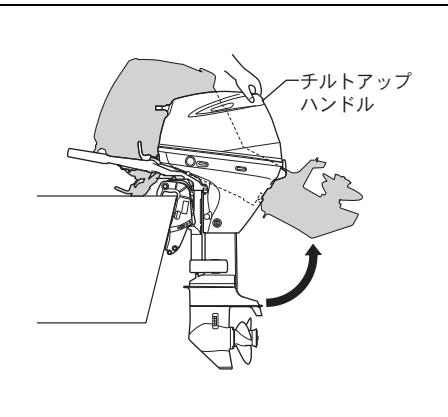
■チルトアップ

船外機のチルトアップを行うときは、次の手順で行ってください。

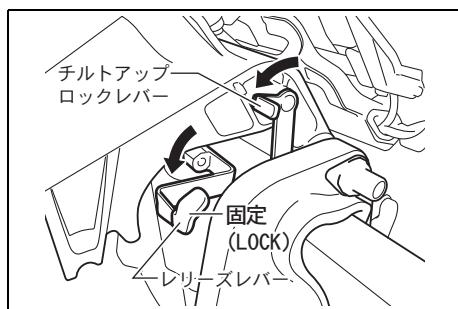
- エンジンを停止してください。
- レリーズレバーを「解除 (RELEASE)」の位置にしてください。



- エンジンカバー後部のチルトアップハンドルに手をかけ、最大チルトアップ位置になるまで、手前（船首側）に引いてください。



- チルトアップロックレバーを、左方向 (図示矢印方向) に回し、下げてください。



- チルトをチルトアップロックレバーがチルトストッパー bolt に当たるまで下げてください。



6. レリーズレバーを「固定 (LOCK)」の位置にしてください。

▲ 警 告

船外機を長時間にわたりチルトアップしておく場合は、燃料漏れを防止するため、船外機から燃料ホースコネクタの接続を外しておいてください。

7. 船外機側で燃料ホースコネクタの接続を外してください。

注 記

こぼれた燃料をそのまま放置すると塗装のしみ、変色などの原因となります。

こぼれた燃料は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。

■チルトダウン

船外機のチルトを通常の航走位置まで下げるときは、次の手順で行ってください。

1. レリーズレバーを「解除 (RELEASE)」の位置にしてください。
2. エンジンカバー後部のチルトアップハンドルに手をかけ、手前（船首側）に少し引いてください。
3. チルトアップロックレバーを右（図示矢印方向）に回して引き上げてください。



4. エンジンカバー後部のチルトアップハンドルを押え、船外機のチルトをゆっくりと通常の航走状態まで下げてください。

チルトアップ／ダウン（リモートコントロール仕様 (DF30AT) ティラーハンドル仕様 (DF30ATH)）

▲ 警 告

ドライブユニットとクランプケットの間に挟まれるとけがをします。

PTTスイッチを操作してチルトを上げたり下げたりするときは、船外機の付近に人がいないことを確認した後に行ってください。

注 記

エンジンが運転されている状態でチルトアップ／ダウンの操作をすると、エンジンがオーバーヒートし、損傷を招きます。

チルトアップ／ダウンの操作は、エンジンを停止した後に行ってください。

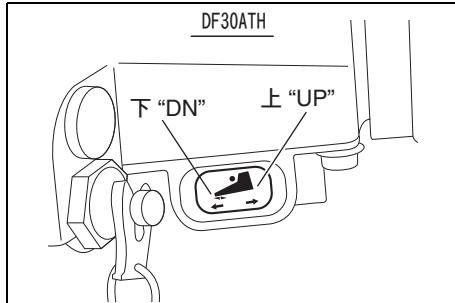
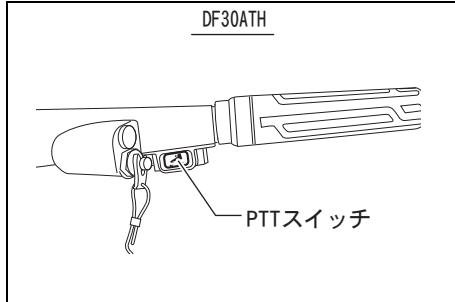
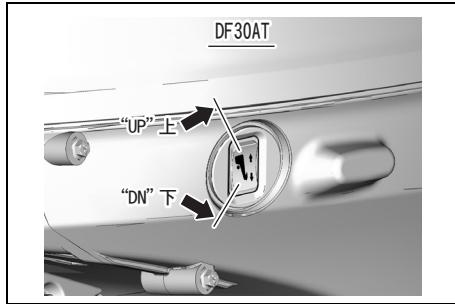
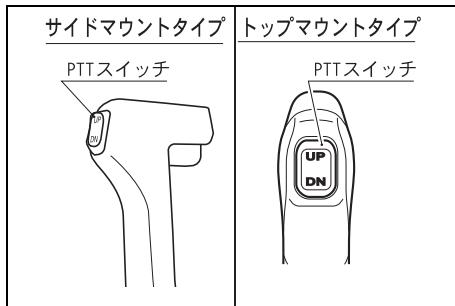
■チルトアップ

船外機のチルトアップを行うときは、次の手順で行ってください。

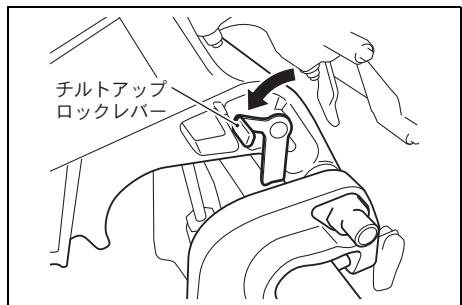
1. エンジンを停止してください。
2. PTTスイッチの“UP”側を船外機が最大チルトアップ角になるまで押し続けてください。

注 記

チルトアップは、エンジンカバーやティラーハンドルが船体、積み荷や艤装品に当たり、損傷することのないように気を付けて行ってください。



3. チルトアップロックレバーを、左方向（図示矢印方向）に回し、下げてください。



4. PTTスイッチの“DN”側を押し、チルトアップロックレバーがチルトストップバーボルトに当たるまでチルトを下げてください。



▲ 警 告

船外機を長時間にわたりチルトアップしておく場合は、燃料漏れを防止するため、船外機から燃料ホースコネクタの接続を外しておいてください。

5. 船外機側で燃料ホースコネクタの接続を外してください。

注 記

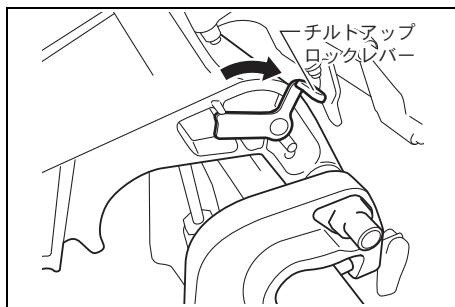
こぼれた燃料をそのまま放置すると塗装のしみ、変色などの原因となります。

こぼれた燃料は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。

■チルトダウン

船外機のチルトを通常の航走位置まで下げるときは、次の手順で行ってください。

1. PTTスイッチの“UP”側を船外機が最大チルトアップ角になるまで押し続けてください。
2. チルトアップロックレバーを右(図示矢印方向)に回して引き上げてください。
3. PTTスイッチの“DN”側を押して元のトリム/チルト角になるまで下げてください。



係 留

エンジンを停止し、長時間使用しない場合、浅瀬に船を係留しておく場合等は、岩や海底に船外機の下部を打って、損傷することを防止するために、船外機をチルトアップさせてください。

チルトアップの方法は、この章の「チルトアップ/ダウン」の項を参照してください。

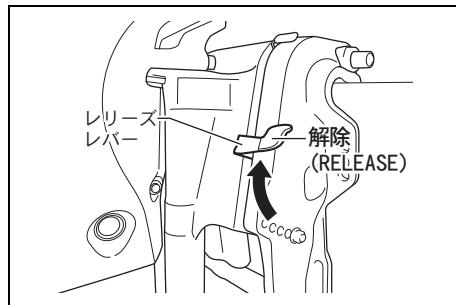
浅瀬航走

〈ティラーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)〉

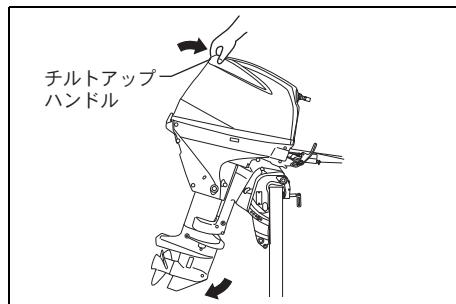
浅瀬を航走する場合は、通常の航走時よりトリム角を少し大きくしてください。

トリム角を大きくするときは、次の要領で行ってください。

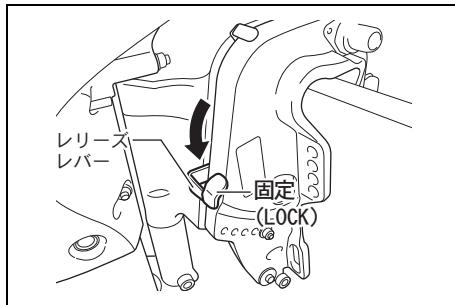
1. エンジンを停止してください。
2. レリーズレバーを「解除(RELEASE)」の位置にしてください。



3. エンジンカバー後部のチルトアップハンドルに手を掛け、船外機を任意のトリム角になるまで引き上げてください。



4. レリーズレバーを「固定 (LOCK)」の位置にしてください。



航走時には、冷却水の吸水口が水面下にあるか、検水口から排水があるか確かめながら、水深、障害物に気を付け、低速で航走してください。

万一、障害物に接触した場合は、船外機、ボートに損傷箇所がないか点検してください。

注記

浅瀬航走中にエンジン回転を上げ過ぎると、通常の航走位置までトリムが戻されたりすることがあります。
浅瀬航走は、低速で行ってください。

注記

- ・浅瀬を航走しているときは、最速度で、障害物に気を付けながら航走してください。
万一、障害物に接触した場合は、船外機、ボートに損傷箇所がないかを点検してください。
- ・浅瀬を航走しているときは、冷却水の吸水口が水面下にあり、検水口から冷却水が排出されていることを確認しながら航走してください。
検水口から排水がないとエンジンがオーバーヒートします。

充分な水深のある場所に戻ったら、通常のトリム角に戻してください。

通常のトリム角に戻すときは：

1. シフトレバーをニュートラル（中立）の位置にします。
2. レリーズレバーを「解除 (RELEASE)」の位置にしてください。
3. エンジンカバー後部のチルトアップハンドルを押さえ、ゆっくりと船外機のトリムを下げてください。
4. レリーズレバーを「固定 (LOCK)」の位置にしてください。

浅瀬航走

〈リモートコントロール仕様 (DF30AT)〉

ティラーハンドル仕様 (DF30ATH)〉

浅瀬を航走する場合は、PTT スイッチを操作し、通常の航走時よりトリム角を少し大きくしてください。

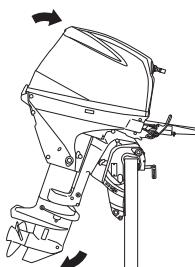
航走時には、冷却水の吸水口が水面下にあるか、検水口から排水があるか確かめながら、水深、障害物に気を付け、低速で航走してください。

万一、障害物に接触した場合は、船外機、ボートに損傷箇所がないか点検してください。

充分な水深のある場所に戻ったら、通常のトリム角に戻してください。

注記

- ・浅瀬を航走しているときは、最低速度で、障害物に気を付けながら航走してください。
- 万一、障害物に接触した場合は、船外機、ボートに損傷箇所がないかを点検してください。
- ・浅瀬を航走しているときは、冷却水の吸水口が水面下にあり、検水口から冷却水が排出されていることを確認しながら航走してください。
検水口から排水がないとエンジンがオーバーヒートします。



寒冷地での使用

注記

寒冷地では、エンジンの冷却水経路内に水が残っていると水が凍り、膨張し、エンジンが損傷するおそれがあります。

- ・寒冷地で使用する場合は、ギヤケースを常に水中に入れておいてください。
- ・陸上に上げた場合は、チルトを通常の航走位置まで下げ、まっすぐに立てた状態で、冷却水が船外機から抜けるような状態にしておいてください。

13 調 整

プロペラ

■プロペラの選択

注 記

ボート、使用状態に合ったプロペラが船外機に取り付けられていないと、エンジン回転数が指定の全開使用回転範囲より高くなったり、低くなったりします。

このことは、エンジンに悪影響を与え、重大な損傷を招く要因となります。

プロペラは、ボートに合うように選定し、全速力で航走した時のエンジン回転が指定の全開使用回転範囲内になるようにしてください。

- ・ 船外機の持ち前の性能を完全に引き出すためには、プロペラの選択が非常に重要です。
- ・ スロットルを全開にして全速で航走したとき、エンジン回転数が下記に示す「全開使用回転範囲」にあればボートに合ったプロペラが取付けられています。
- ・ エンジン回転数は、船外機を取り付けたボートの種類とプロペラのサイズ、ボートの使用状態により異なります。
- ・ エンジン回転が下記の範囲にないときは、異なったピッチのプロペラを選択し、取り付けてください。

全開使用回転範囲	DF25A	5000 - 6000 r/min
	DF30A	5300 - 6300 r/min

アドバイス

プロペラの選択は、スズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

トローリングスピード

アドバイス

トローリングスピードとは、安定して運転可能な最低速の航行スピードのことです。

トローリング
スピード

800 - 900 r/min

■調 整

アドバイス

トローリングスピードの調整が必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

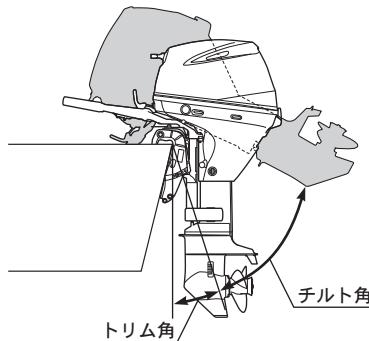
トリム角の調整

警 告

不適切なトリム角は、航走時にボートが安定性を失ったり、ステアリングの操作に支障が生じ、事故につながるおそれがあります。

トリム角は、ボートの航走姿勢が最良の状態になるように調整してください。

- ・ ステアリングの安定性とボート・船外機の性能を完全に引き出すために、ボートの航走姿勢を最良の状態にしなければなりません。
- ・ ボートの航走姿勢は、船外機のトリム角、航走時の諸条件（海況、積み荷の量、航走スピード等）により影響をうけます。
- ・ ボートの航走姿勢を最良にするために、船外機のトリム角を調整する必要があります。



⚠ 警告

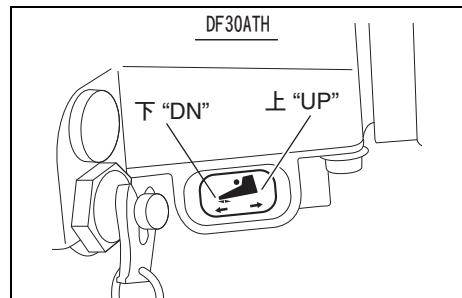
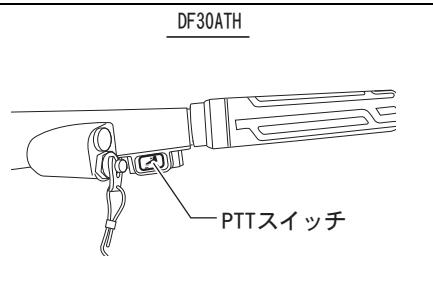
不適切なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながるおそれがあります。トリム角の調整は、ボートの航走状態に気を付けながら行ってください。ボートの航走姿勢や安定性、ステアリングの操作に異常を感じたときは、すみやかにスピードを落としてください。

トリム角の調整は、PTTスイッチを操作して、次の要領で行ってください。

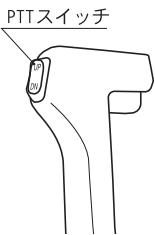
- ボートのバウ（船首）を上げるために PTTスイッチの“UP”側を押してください。
- ボートのバウ（船首）を下げるために PTTスイッチの“DN”側を押してください。

⚠ 警告

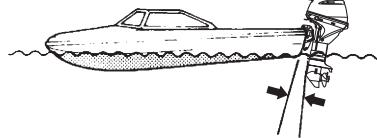
- PTTスイッチの操作をまちがえた
り、船外機のトリムを一度に大き
く変えたりすると転覆等の事故を
招くおそれがあります。
PTTスイッチは正しく操作し、ス
イッチの操作時間はできるだけ短
時間とし、何回かに分けて少しづつ
トリム角を変えるようにしてください。
- チルト角の範囲で航走するとボ
ートの姿勢が不安定になったり、操船
に支障をきたし、事故を招くおそれ
があります。
また、エンジンがオーバーヒートす
る原因になります。
チルト角の範囲での航走は、避けて
ください。



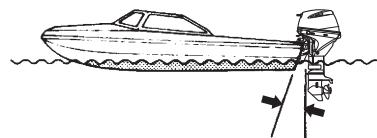
サイドマウントタイプ



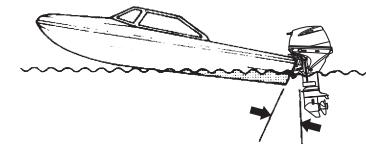
トップマウントタイプ



- トリム角が小さ過ぎると：
 - ・航走中に船首が沈み、波をかぶるようになります。
 - ・このような時は、トリム角を大きくするように、PTTスイッチの“UP”側を押して調整してください。



- 適正なトリム角：
 - ・航走中、船の姿勢が水面とほぼ平行になるような状態



- トリム角が大き過ぎると：
 - ・航走中に船首が上がり、ボートが左右にふられたりするようになります。
 - ・このような時は、トリム角を小さくするように、PTTスイッチの“DN”側を押して調整してください。

アドバイス

トリム／チルトの上げ下げを短時間に繰り返し行うと、PTT のモーターがオーバーヒートして保護回路が作動することがあります。保護回路が作動している間は、トリム／チルトの上げ下げができません。オーバーヒートが解消されるとトリム／チルトの上げ下げができるようになります。

■調 整

〈ティラーハンドル仕様 (DF25AQH/30AQH)〉

▲警 告

不適切なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながるおそれがあります。

チルトピンの位置をかえてトリム角の調整をしたときは、いきなり全速力で航走しないでください。ボートの航走状態に気を付けながら徐々にスピードを上げてください。

ボートの航走姿勢や安定性、ステアリングの操作に異常を感じたときは、すみやかにスピードを落し、トリム角の調整をやり直してください。

▲警 告

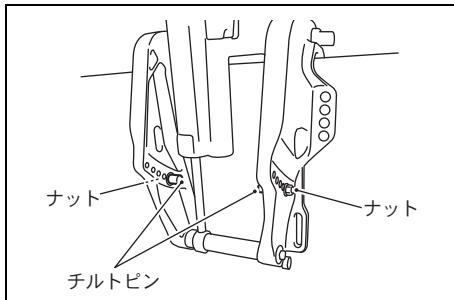
チルトピンを取り外して船外機を運転すると、操船に支障をきたし事故につながることがあります。

チルトピンを取り外して船外機を運転しないでください。

トリム角の調整は、次の要領で行い、チルトピンの差し込み位置を調節してください。

1. エンジンを停止してください。
2. 船外機を最大にチルトアップし、この位置をチルトアップロックレバーで保持してください。

3. 適切なトリム角となるように、ナットを緩めて取り外し、チルトピンの位置を差し替えてください。



アドバイス

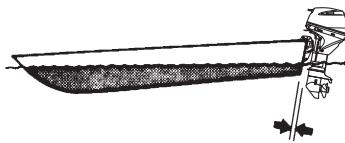
- ・ボートのバウ（船首）を上げるためには、チルトピンの位置を上の穴（後方の穴）に差し替えてください。
- ・ボートのバウ（船首）を下げるためには、チルトピンの位置を下の穴（トランサム側の穴）に差し替えてください。

4. チルトピンのナットをしっかりと締め付けてください。

注記

左右のチルトピンは、同じ高さの穴位置にしてください。

5. 船外機のチルトを通常の航走状態まで下げてください。
6. ボートのテスト走行を行い、航走姿勢が最良の状態かを確認してください。



- トリム角が小さ過ぎると：
 - ・航走中に船首が沈み、波をかぶるようになります。
 - ・このような時は、トリム角を大きくするように、チルトピンの位置を差し替えてください。



- 適正なトリム角：
 - ・航走中、船の姿勢が水面とほぼ平行になるような状態



- トリム角が大き過ぎると：
 - ・航走中に船首が上がり、ボートが左右にふられたりするようになります。
 - ・このような時は、トリム角を小さくするように、チルトピンの位置を差し替えてください。

トリムタブ

トリムタブの調整は、ボートのステアリングの左右の操作力のバランスを補正するために行います。

■調 整

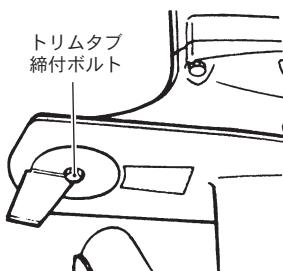
▲ 警 告

不適切なトリムタブの調整は、航走時のボートの安定性を損ない、操船に支障が生じます。

トリムタブは、適切な位置に調整してください。

ステアリングが右または左にとられる場合、これを補正するために、トリムタブを次の要領で調整してください。

1. トリムタブ締付ボルトを緩めてください。

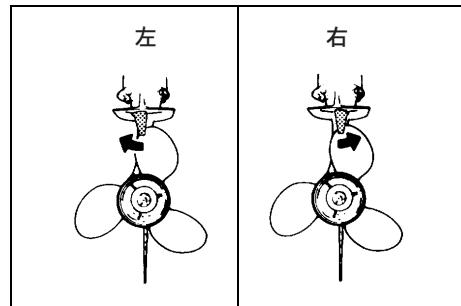


2. 次のようにトリムタブの向きを変えてください。

ステアリングが：

右にとられる時 …… トリムタブを右方向に回します。

左にとられる時 …… トリムタブを左方向に回します。



注 記

トリムタブの調整をした後は、ボルトでトリムタブを確実に締め付け、固定してください。

3. トリムタブ締付ボルトを確実に締め付けてください。
4. 何回かテスト走行し、手順 1 – 3 を繰り返し、トリムタブを一番良い位置にしてください。

14 取外しと運搬

▲ 警 告

こぼれたガソリンや気化したガソリンは、引火爆発、火災につながるおそれがあります。常に次のことを守ってください。

- ・船外機をボートから取り外すとき、運搬・保管する場合は、その前に燃料配管及びベーパーセパレーターから燃料を抜き取ってください。
- ・船外機に火気を近づけないでください。
- ・こぼれたガソリンは、すぐにふき取ってください。

▲ 警 告

ガソリンは、引火しやすく火災のおそれがあります。

燃料配管及びベーパーセパレーターから燃料を排出するときは、必ず燃料を耐ガソリン性の容器の中へ回収し、その燃料は火災および環境に留意して適切に処分してください。

取外し

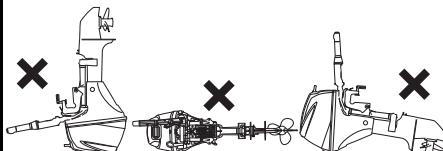
船外機を艇体から取り外す場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

運 搬

注 記

- ・船外機を運搬や保管する場合、下図に示すような置き方をしないでください。

下図に示すような置き方をすると、オイルパン内のエンジンオイルがシリンダー内に流入したり、エンジンカバー類が損傷する原因になります。



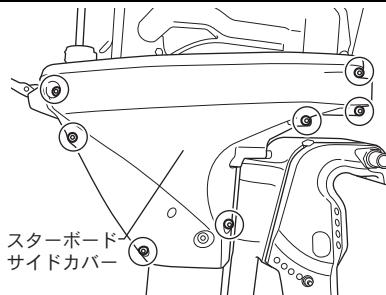
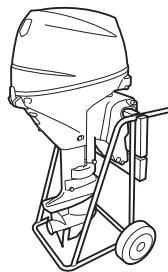
- ・船外機を横置きにする場合は、船外機に溜まっている冷却水を完全に排出してください。冷却水が残っていると、それがシリンダーに流入し、エンジンが損傷するおそれがあります。

船外機を運搬するには、次の方法があります。

■ 船外機を立てた状態で船外機運搬用台車に固定し、運搬する場合

▲ 警 告

- ・船外機の転倒などによる思いがけない事故を防ぐため、船外機をクランプスクリューでしっかりと運搬用台車に固定してください。
- ・運搬用台車の代わりに展示用スタンドを使用して船外機を運搬することは危険ですので絶対におやめください。



■船外機を横置きにして運搬する方法

注記

船外機を運搬や保管する場合、プロペラ部をエンジン部より高くすると、船外機の内部に水が残っていると、その水がエンジン内部に流れ込み、エンジンが損傷するおそれがあります。
船外機を運搬や保管する場合、プロペラ部をエンジン部よりも高くしないでください。

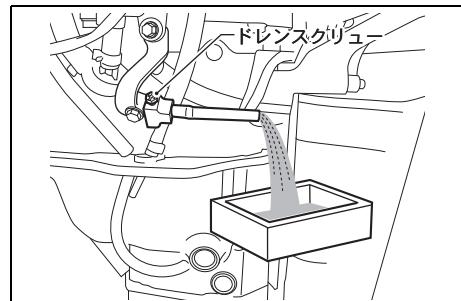
船外機を横置きにして運搬する場合は、その前に次の処置をしてください。

- エンジン燃料配管内の燃料を、次の要領で耐ガソリン性の容器の中に排出してください。

アドバイス

ドレンスクリューを緩めるときは、その前にサイドカバーを取り外す必要があります。
サイドカバーの取外し／取付け方法は、取扱店にご相談ください。

- エンジンカバーを取り外してください。
- 7 本のスクリューを取り外し、スター ボードサイドカバーを取り外してください。



注記

こぼれた燃料をそのまま放置すると塗装のしみ、変色などの原因となります。

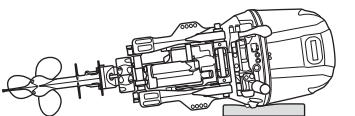
こぼれた燃料は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。

- 燃料が完全に排出されたら、ドレンスクリューを確実に締め付けてください。
- スター ボードサイドカバーを取り付け、スクリューで締め付けてください。
- エンジンカバーを取り付けてください。

アドバイス

横置きにする場合は、

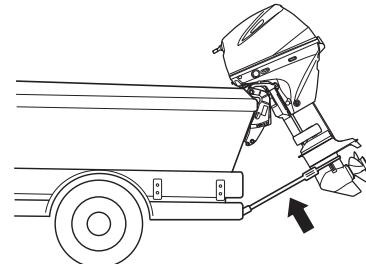
- ・下図のように(エンジンオイルドレンプラグ側を上に)してください。
- ・船外機の下にクッション材(毛布、発泡スチロール等)を敷くなどし、損傷しないようにして床面に置いてください。



トレーラーリング

船外機をボートに取り付けた状態で運搬する場合は、地面と船外機の下部が接触しないように気を付けてください。

通常の航走位置の状態で地面との間に充分な間隔が得られないときは、船外機のチルトを上げ、図のように適切な器具を用いて船外機の重量を保持してください。



注記

船外機／ボートをトレーラーリングするとき、船外機を最大チルトアップ位置にし、その位置の保持にチルトアップロックレバーを使用しないでください。

牽引中、悪い路面等を走行した場合に発生する振動、衝撃などによりチルトアップロックレバーが外れ、船外機のチルトが下がるおそれがあります。

15 定期点検

▲ 警 告

整備作業について、あまり技術的な知識または経験がない場合は、この船外機の点検・整備の作業を行わないでください。

船外機の損傷等により負傷をするおそれがあります。

安全のため、ご自身の知識・技量の範囲で行ってください。

難しいことや自信のないことは、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店におまかせください。

- ・船外機を最良の状態に保ち、安全に使用するために、下表のスケジュールに従って定期的に点検を行ってください。
- ・点検の結果、船外機に不具合や異常がみられたときは、使用せずにスズキ特約店またはスズキ販売店に点検・整備を依頼してください。

▲ 警 告

・定期点検スケジュールの表中の（*）印付きの点検項目については、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店に点検・整備を依頼してください。

・定期点検スケジュールの表中の（*）印のない点検項目については、「16 簡単な点検・整備」の章、記載ページを参照して点検を実施してください。

不明な点については、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店にお問い合わせください。

定期点検スケジュール

I : 点検、清掃、調整、給油、不具合部品は交換してください。 T : 締付、R : 交換

点検項目	期 間	最初の 20 時間 又は 1ヶ月後	100 時間毎 又は 1年毎	200 時間毎 又は 1年毎	300 時間毎 又は 3年毎	オフ シーズン (長期保管)
スパークプラグ		I				I
燃料系統／ブリーザーホース	I	I				I
エンジンオイル	R	R				R
ギヤオイル	R	R				R
給油／給脂	I	I				I
アノード（外部取付け）	I	I				I
*アノード (パワーへッド内部取付け)		I				
ボンディングワイヤー	I	I				I
*ワイヤリングハーネス／ コネクター	I	I				I
*リモートコントロール	I	I				I
*パワートリム＆チルト	I	I				I
バッテリー	I	I				I
*エンジンオイルフィルター	R		R			

点検項目	期 間	最初の 20時間 又は 1ヶ月後	100時間毎 又は 1年毎	200時間毎 又は 1年毎	300時間毎 又は 3年毎	オフ シーズン (長期保管)
*低圧燃料フィルター	I	I				I
	R (400時間又は2年毎に交換)					
*タイミングベルト			I			
	4年(800時間)毎に交換					
*低圧燃料ポンプフィルター	R (1000時間毎に交換)					
*アイドリング回転	I		I			I
*バルブクリアランス	I		I			
*ウォーターポンプ			I			I
*ポンプインペラ			I	R		I
*プロペラ / プロペラナット / ピン	I & T	I & T				I & T
*ボルト / ナット	T	T				T
*サーモスタット		I				I

アドバイス

- ・部品交換が必要なときは、必ずスズキ純正部品、またはスズキが推奨する部品を使用してください。
- ・点検は、時間または月数の早く到達した方のどちらかで行ってください。
- ・前記表中の点検期間は、一般的な使用状況の船外機について定めたものです。
以下に示すような過酷な使用状況で頻繁に船外機を運転した場合は、点検期間を短縮して頻繁に点検をしてください。
 - ・長時間、最大回転数で継続運転した場合
 - ・長時間、アイドリングスピード、またはトローリングスピードで継続運転した場合
 - ・急加速と急減速を頻繁に行った場合
 - ・前進・後進のシフト操作を頻繁に行った場合
 - ・酸性水域や、泥、砂、沈殿物の多い水域で頻繁に浅瀬航走を行った場合
 - ・十分な暖機運転をしないでスロットルを全開にして運転した場合
 - ・エンジン停止前に数分間のアイドリング運転を行わず、エンジンを冷やさないで停止した場合

16 簡単な点検・整備

この章は、ご自身でも実施できる簡単な点検・整備の方法を説明しています。

▲ 警 告

点検・整備をするときは、安全に十分注意し、事故を未然に防止するためには、次のことを厳守してください。

- ・点検・整備は、エンジンを停止して行ってください。
(エンジンを運転して点検作業をすることが本書に指示してある場合を除く。)
- ・点検・整備を行うときは、火気厳禁です。
- ・点検・整備は、安全のため、ご自身の知識・技量の範囲で行ってください。
難しいことは、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店におまかせください。

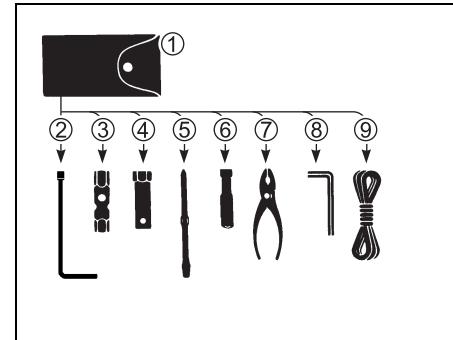
サービス工具

この船外機には、サービス工具が付属されています。

サービス工具袋の中に、すべての工具が同梱されていることを確認し、いつも船の所定の場所に格納しておいてください。

サービス工具袋の中には、以下の工具が含まれています。

- ① 工具袋
- ② 8 mm ボックスレンチ
- ③ 10 × 12 mm ボックスレンチ
- ④ プラグレンチ
- ⑤ ドライバ $+$ 、 $-$
- ⑥ ドライバグリップ
- ⑦ プライヤ
- ⑧ 8 mm 六角レンチ
- ⑨ 緊急始動ロープ (手動スターター仕様)



スパークプラグ

スパークプラグは、カーボンが電極に付着したり、電極が使用に伴って徐々に消耗したりします。

スパークプラグの状態が悪いと、エンジン不調の原因になります。

定期的に点検・調整をしてください。

標準スパークプラグ

NGK MR6K-9

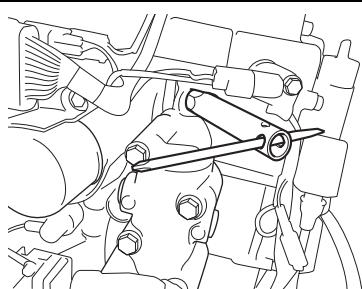
■取外し

▲ 注意

エンジン停止直後は、スパークプラグ本体の温度が高く、火傷をするおそれがあります。

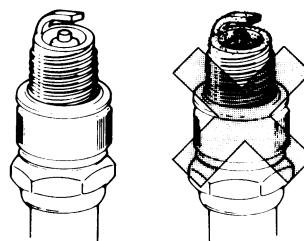
スパークプラグが充分に冷えてから取り外してください。

1. エンジンを停止させてください。
2. スパークプラグキャップをスパークプラグから取り外してください。
3. プラグレンチとハンドルを使用し、スパークプラグを左に回して緩め、取り外してください。



■点検

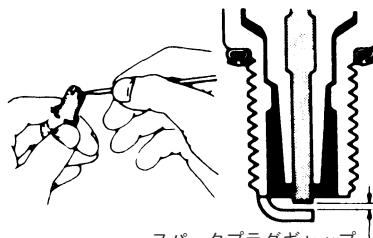
- ・ 中心電極が汚損したりカーボンが付着していたら、きれいに洗浄してください。
- ・ 電極が過度にカーボン等で汚損していたり、消耗している場合は、新品と交換してください。



- ・ スパークプラグギャップを点検し、次の値に調整してください。

スパークプラグギャップ；

0.8 – 0.9 mm



■取付け

スパークプラグの取付けは、取外しの逆の手順で行ってください。

アドバイス

スパークプラグをシリンダーへッドに取り付けるときは、いきなりレンチで締め付けないでください。
最初に手で軽く一杯まで締め込んだ後、プラグレンチで増し締めし、確実に締め付けてください。

エンジンオイル

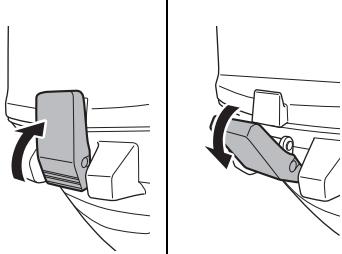
■オイル量、汚れの点検

- エンジンオイルの量が、オイルレベルゲージに示された範囲内にあるかを点検してください。
- またゲージに付着したオイルを布などに付着させて、汚れ具合も点検してください。

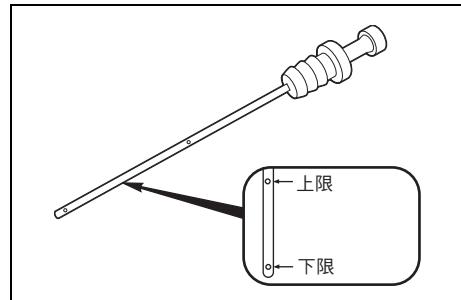
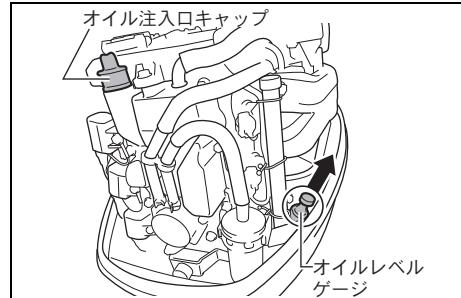
アドバイス

点検は船外機をまっすぐに立てた状態で、エンジン停止後2-3分以上たってから行ってください。

- 船外機をまっすぐに立てた状態にしてください。
エンジンカバーを取り外してください。



- オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを拭き取ってください。



- 再びもとの穴へいっぽいに差し込み、もう一度静かに抜いてゲージに付いたオイルを調べてください。
- 下限に近いときは、推奨エンジンオイルをゲージの上限になるまで補給してください。

■エンジンオイルの補給

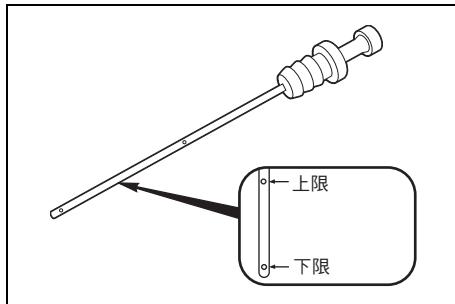
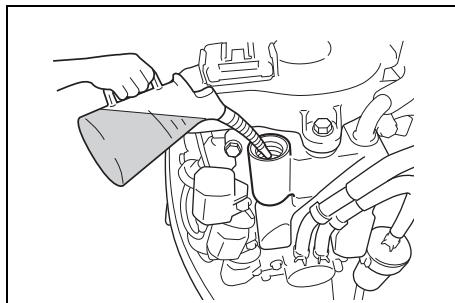
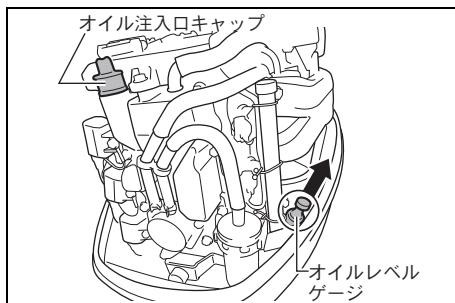
警 告

エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載してある注意文をよく読んでください。

注 記

- 銘柄やグレードの異なるエンジンオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないでください。
オイルの変質を招き、その結果エンジンが故障する原因になります。
- エンジンオイルを補給するときは、オイルの注入口からゴミや水などが入らないように気を付けてください。

1. 注入口のキャップを取り外し、推進エンジンオイルをオイルレベルゲージでオイル量を確かめながら上限まで補給してください。



2. 注入口キャップを確実に取り付けてください。
3. エンジンを2-3分間アイドリング運転した後、エンジンを停止し、再度オイルレベルゲージでオイル量を確認してください。

注記

オイルは規定量より多くても少なくともエンジン不調の原因になります。エンジンオイルの量が、オイルレベルゲージに示された範囲内にあるかを点検してください。

アドバイス

オイルをこぼしたときは、完全に拭き取ってください。

■エンジンオイル交換

▲警告

エンジンオイル交換をするときは、船外機の転倒などにより思いがけない事故を防ぐため、船外機をポートのトランサムまたは船外機スタンドにしっかりと固定してください。

エンジンオイル交換時期:

- ・初回、新機を使用はじめたときから20時間後
- ・以後、100時間、または1年ごと

▲注意

エンジン停止直後は、エンジン本体、オイルが熱くなっています、火傷を負うおそれがあります。

エンジンオイル交換は、エンジンが充分に冷えてから行ってください。

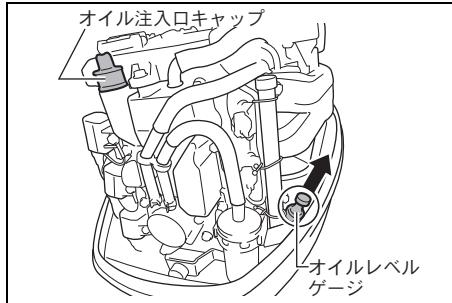
アドバイス

エンジンオイルを交換する前に、「オイルエンジンリマインダーシステム」の運転時間を0(ゼロ)にリセットしてください。

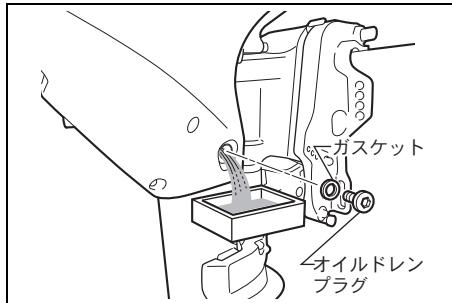
運転時間を0(ゼロ)にリセットする方法は「6モニターシステム」の章、“運転時間表示”、オイルエンジンリマインダーシステムの項目を参照してください。

エンジンオイルの交換は、次の要領で行ってください。

1. 船外機をまっすぐに立てた状態にしてください。
2. エンジンカバーを取り外してください。
3. オイル注入口キャップを取り外してください。



4. 排油受皿をオイルドレンプラグの下に置いてください。
5. オイルドレンプラグを緩め、オイルドレンプラグとガスケットを取り外し、オイルを抜いてください。



アドバイス

排出したオイルは、みだりに捨てないでください。
法律や条例などに従い、定められた方法で処理をしてください。

6. 完全に排出し終わったら、新しいガスケットを取り付け、オイルドレンプラグを確実に締め付けてください。

注記

取り外したガスケットを再使用する
とエンジンオイルが漏れることがあ
ります。

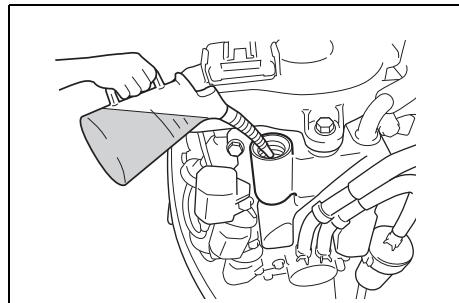
ガスケットは、必ず新しいものを使
ってください。

7. 推奨エンジンオイルを、オイルレベル
ゲージでオイル量を確かめながら上限
まで給油してください。

オイル量：1.5L（上限レベル迄）

推奨エンジンオイル：

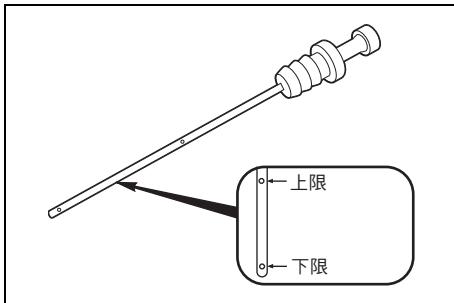
「**3 燃料とオイル**」の章を参照してく
ださい。



8. オイル注入口キャップを確実に取り付
けてください。
9. エンジンを始動し、エンジンオイル系
統に異常がないことを警告ランプで確
認してください。

また、オイル漏れをしている箇所がな
いことも確認してください。

10. エンジンを2-3分間アイドリング運転した後、エンジンを停止し、再度オイルレベルゲージでオイル量を確認してください。



エンジンオイルフィルター

- エンジンオイルフィルターの交換を、次に示す使用時間に到達したときにスズキ取扱店へ依頼してください。

エンジンオイルフィルター交換時期 :

- 初回、新機を使用はじめたときから20時間後
- 以後、200時間、または1年ごと

タイミングベルト

- タイミングベルトの点検を、次に示す使用時間に到達したときにスズキ取扱店へ依頼してください。

タイミングベルト点検時期 :

- 200時間、または1年ごと

タイミングベルト交換時期 :

- 4年(800時間毎)

- 点検の結果、ベルトに過度の摩耗、劣化、損傷などがある場合は交換してください。

燃料系統／ブリーザーホース

▲ 警 告

気化したガソリンは、引火爆発のおそれがあります。

ガソリンのある付近では、火気を絶対に使用しないでください。

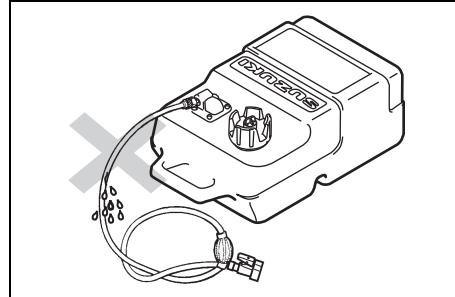
▲ 警 告

燃料漏れは、火災、爆発のおそれがあり、その結果、重大な人身事故になる可能性があります。

燃料系統に漏れ、損傷等の不備があるときは、燃料系統の整備をスズキ特約店またはスズキ販売店に依頼してください。

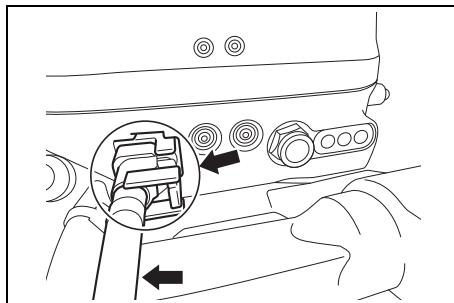
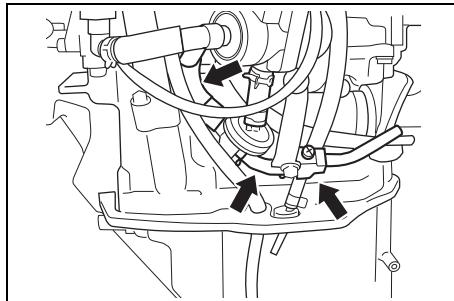
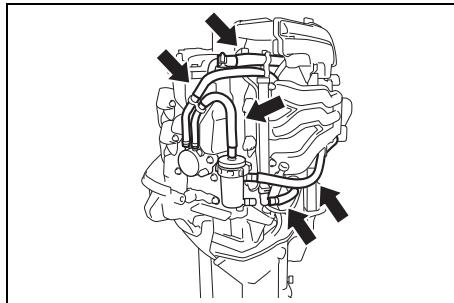
燃料タンク／燃料ホース等の燃料系統、ブリーザーホースにおいて、次の点検をしてください。

不具合がある場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に整備を依頼してください。



■燃料系統

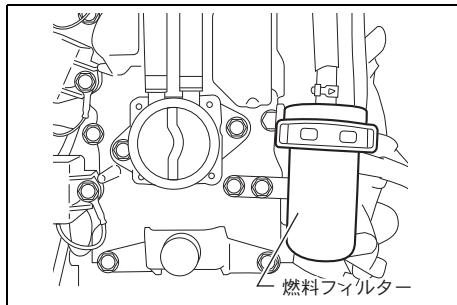
- ・燃料タンク、燃料ホース等の燃料系統の構成部品に損傷、劣化、燃料漏れ等の不備がないことを確認してください。
- ・燃料ホースの接続部がホースバンドで確実に締め付けられていることを確認してください。
- ・燃料系統の接続部から燃料漏れを生じている箇所がないことを確認してください。



■燃料フィルター

燃料フィルターに水、ゴミの混入、エレメントに詰まりがないかを点検してください。

ゴミ等の異物の混入、詰まりがある場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に燃料フィルターの清掃、または交換を依頼してください。



アドバイス

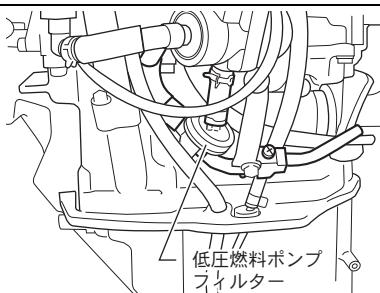
- ・燃料フィルターは、分解できません。
点検は、外部から目視で行ってください。
- ・燃料フィルターは、2年(400時間)毎に定期的に交換することを推奨します。

■低圧燃料ポンプフィルター

- 低圧燃料ポンプフィルターの交換を、次に示す使用時間に到達したとき、スズキ取扱店へ依頼してください。

低圧燃料ポンプフィルター交換時期：

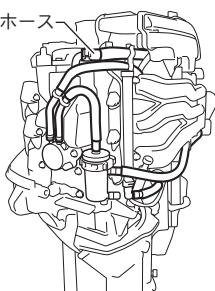
- 初回、新機を使用はじめたときから 1000 時間後
- 以後、1000 時間ごと

低圧燃料ポンプ
フィルター

■ブリーザーホース

ブリーザーホースに漏れ、割れ、その他の損傷がないかを点検してください。
不具合がある場合は、スズキ特約店またはスズキ販売店に整備を依頼してください。

ブリーザーホース



ギヤオイル

オイル交換時期：

- 初回、新機を使用はじめたときから 20 時間後、または 1 ヶ月後。
- 以後、100 時間、または 1 年ごと

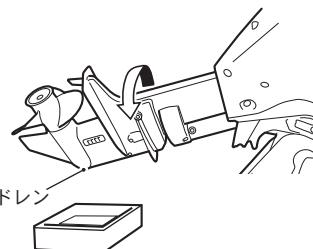
■オイル交換

⚠ 警 告

ギヤオイルの交換をするときは、船外機の転倒などにより思いがけない事故を防ぐため、船外機をボートのトランサムまたは船外機スタンドにしっかりと固定してください。

ギヤオイルの交換は、次の要領で行ってください。

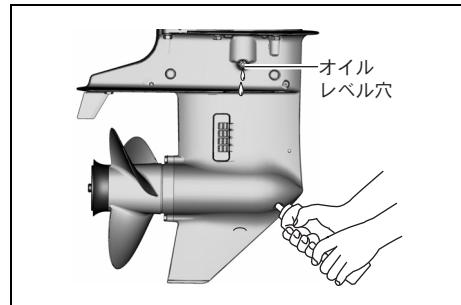
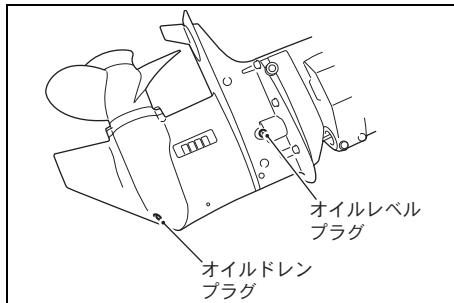
- 船外機を最大チルトアップ位置にします。
チルトアップ：
「[12] 運転・操作」の章、チルトアップ／ダウンの項を参照してください。
- 船外機をスターボード側（右舷側）に傾け、ギヤオイルドレンプラグを下に向けてください。
- 排油受皿をギヤケースの下に置いてください。



アドバイス

環境や資源を保護するために、排出したオイルは、みだりに捨てないでください。
法律や条例等に従い、定められた方法で処理をしてください。

- オイルレンプラグとオイルレベルプラグをドライバーで緩め、取り外してください。



- 注入したオイルがオイルレベル穴から出はじめたら、オイルレベルプラグを締め付けてください。
- オイルレンプラグを即座に締め付けてください。

注記

ギヤオイルに水が混じると、ギヤケース内の部品が損傷するおそれがあります。

排出したギヤオイルを注意深く観察し、オイルに水が混じり白濁して(白くにごって)いたら、至急、スズキ特約店またはスズキ販売店に点検・整備を依頼してください。

- オイルを完全にギヤケースから排出してください。
- 船外機をまっすぐ立てた状態にし、推奨ギヤオイルをオイルレンプラグ穴から注入してください。

推奨ギヤオイル；
スズキアウトボードモーターギヤオイル
または
ハイポイドギヤオイル SAE90、
API 分類 GL-5 相当品

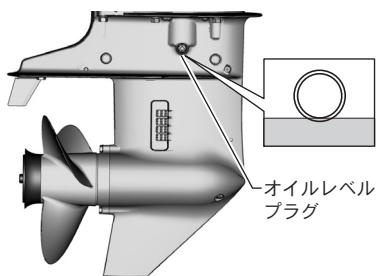
ギヤオイル規定量	約 330ml
----------	---------

注記

オイルドレンプラグやオイルレベル
プラグの緩みは、ギヤケース内への水
の浸入の原因になります。
各々のプラグは、新しいガスケットを
使用し、確実に締め付けてください。

■ギヤオイルレベルの点検

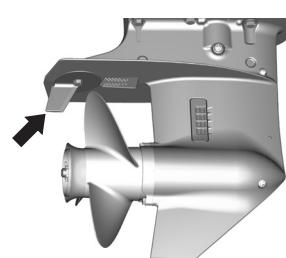
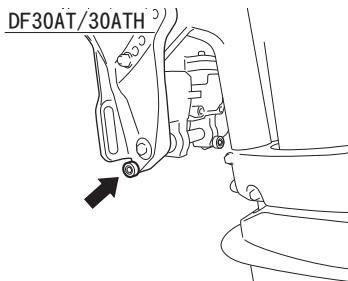
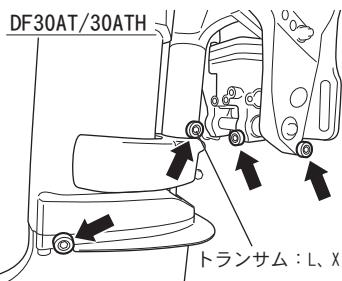
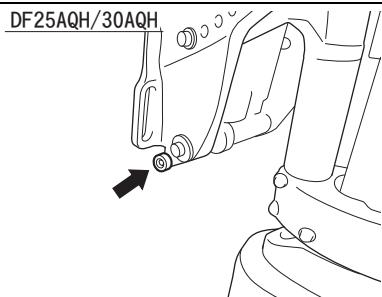
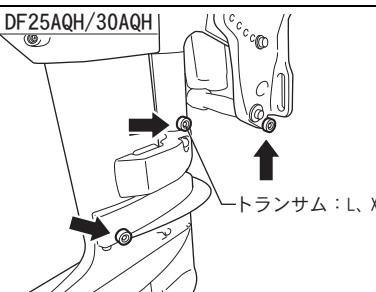
ギヤオイルレベルの点検は、オイルレベル
プラグを取り外して行います。
船外機をまっすぐに立てた状態で、オイル
がオイルレベルプラグ穴の下端まであれば、
オイルレベルは適正です。



アノード

アノードは、船外機を腐食から守る犠牲金属で、使用時間の経過とともに減少しま
す。

定期的に点検を行い、新品の大きさの 2 /
3 ぐらいまで減ったたら、新しい物と交換を
してください。



注記

- ・アノードに塗料等を塗ると電蝕防止の効果が無くなります。
アノードに塗料等を塗らないでください。
- ・アノードの効果を確実にするために、アノードの表面を定期的にワイヤーブラシ等できれいにしてください。
- ・アノードは、船外機の腐食を防ぎます。必ず所定の位置に取り付けてください。

アドバイス

パワー・ヘッド内部に取付けられているアノードの点検と交換は、スズキ取扱店に依頼してください。

バッテリー

(電動スターター仕様)

⚠ 警告

- ・バッテリーは、引火性のガスを発生し、引火爆発のおそれがあります。
-バッテリーの付近では火気を絶対に使用しないでください。
また、バッテリー付近でスパーク(火花)を発生させないでください。
- バッテリーケーブルをバッテリーから取り外すときは、イグニッションキーをOFF(切)位置にし、マイナスケーブルを最初に、次にプラスケーブルを取り外してください。
ケーブルを取り付けるときは、プラスケーブルを先に取り付けてください。
- バッテリーの充電作業は、換気が良く、風通しの良い所で行ってください。
- ・バッテリーを取り扱うときは、保護具【保護メガネ(ゴーグル)、ゴム手袋等】を身につけてください。
- ・バッテリー液(希硫酸)が目や皮膚につくと失明、やけど等、その部分が侵されますので十分に気を付けてください。
万一、付着したときは、直ちに多量の水で洗い流し、早急に医師の治療をうけてください。

⚠ 注意

バッテリーには、バッテリー使用上の警告ラベルが貼られています。
使用前に警告ラベルをよく読んでください。

アドバイス

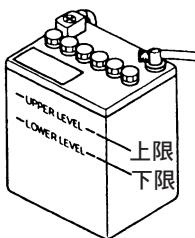
バッテリーは、バッテリーメーカーの説明書の指示に従い、保守・点検をしてください。

アドバイス

バッテリー端子の偶発的なショートを防ぐために、プラスバッテリー端子に絶縁カバーを取付けてください。
絶縁カバーが必要なときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談ください。

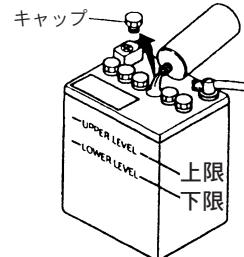
■バッテリー液量の点検

- ・バッテリー液面が各槽とも下限レベル (LOWER LEVEL) と上限レベル (UPPER LEVEL) の間にあるかを点検してください。
- ・液面が下限に近づいたら、上限までバッテリー補充液 (蒸留水) を補給してください。



■バッテリー液の補給

1. キャップを取り外し、各槽ごとに上限レベルまでバッテリー補充液 (蒸留水) を補給してください。
2. 補給後は確実にキャップを締め付けてください。



ボルト&ナット

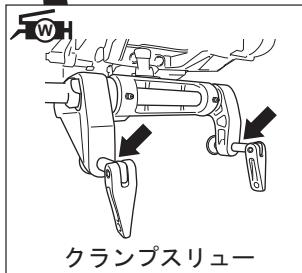
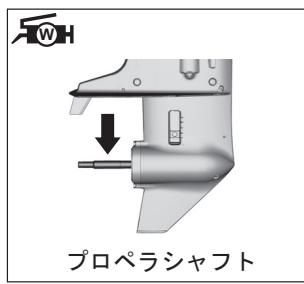
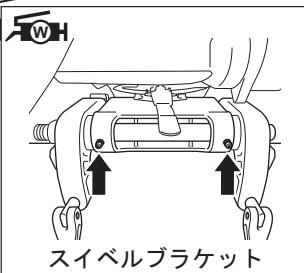
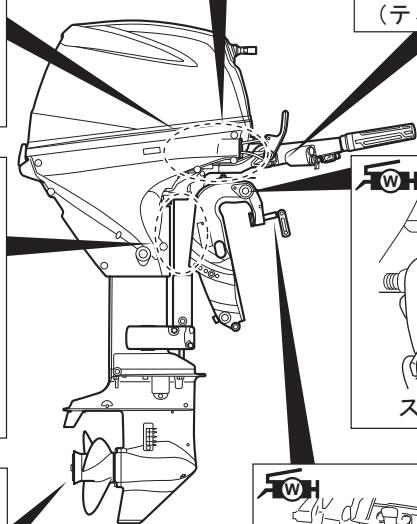
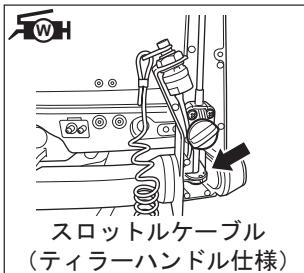
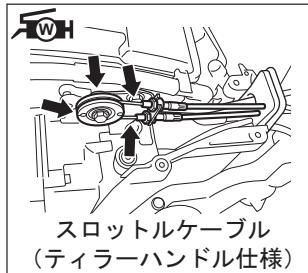
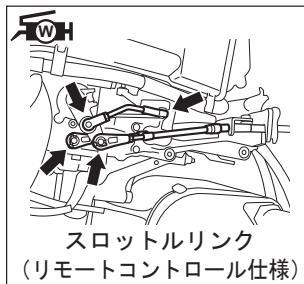
船外機の主要構成部品の締付けボルトとナット (シリンドーヘッドボルト、エンジン締付けボルト、ロワーユニット締付けボルト等) に緩みがないかを点検してください。締付けに緩みがある場合は、増し締めをしてください。

給油／給脂

船外機の各作動部のスムーズで確実な作動を確保するために、定期的に給油／給脂を行うことが必要です。

次に給油／給脂箇所と推奨油脂を記載します。

 :スズキ ウォーターレジスタントグリスを塗布してください。
(グリスニップルにはグリスガンを用いて注入してください。)



アドバイス

ステアリングブラケットへグリスを注入するときは、その前に船外機をチルト角が最大になるまでチルトアップさせてから行ってください。

プロペラ

▲ 警 告

プロペラの取付け、取外しを行うときに注意を怠ると、重大な傷害を招くことがあります。

偶然にエンジンが始動することを防止するために、プロペラの取付け、取外し等を行う前には、次のことを実施してください。

- ・シフトをニュートラルにしてください。
- ・ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチから取り外してください。
- ・全てのスパークプラグキャップをスパークプラグから取り外してください。
- ・バッテリーケーブルをバッテリーから取り外してください。

▲ 注 意

プロペラブレードは、薄く鋭利で不小心に取り扱うとけがのおそれがあります。

- ・交換や異物の除去作業時には、手袋をして気を付けて行ってください。
- ・手を保護するために、プロペラナットを緩めたり、締め付けたりするときは、プロペラブレードとアンチキャビテーションプレートの間に適当な木片を置き、プロペラをロッカしてください。

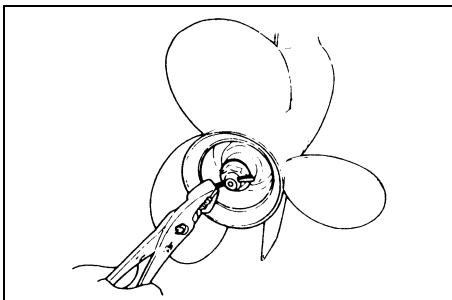
■点 検

- ・プロペラに過度の摩耗、損傷、欠け、曲がり、腐食がないかを点検してください。
- ・点検の結果、損傷等が著しいものは、交換してください。

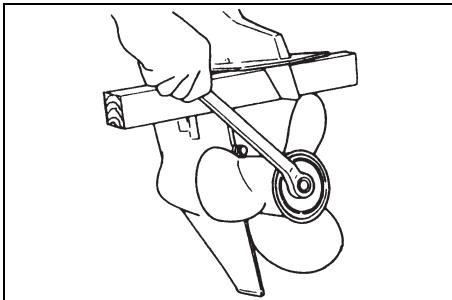
■プロペラの取外し

プロペラの取外しは、次の要領で行ってください。

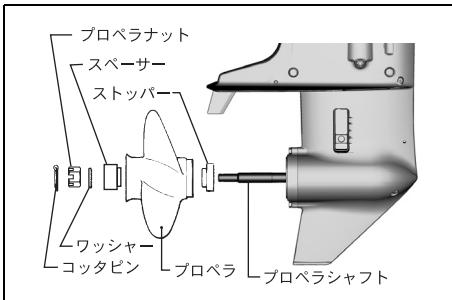
1. コッタピンを伸ばし、取り外してください。



2. ナットを緩め、取り外してください。



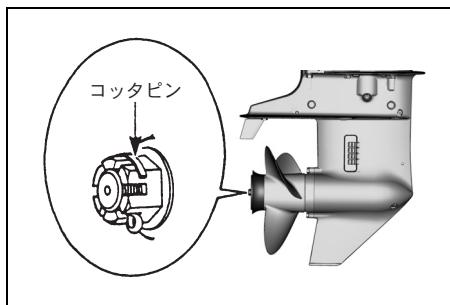
3. ワッシャー、スペーサー、プロペラ、ストッパーを順次プロペラシャフトから取り外してください。



■プロペラの取付け

プロペラの取付けは、次の要領で行ってください。

1. プロペラシャフトにスズキウォーターレジスタントグリスを塗布してください。
2. スッパーをプロペラシャフトに取り付けてください。
3. プロペラをプロペラシャフトに取り付けてください。
4. スペーサーとワッシャーをプロペラシャフトに取り付けてください。
5. プロペラナットをプロペラシャフトに取り付け、 $20 \sim 30 \text{N} \cdot \text{m}$ ($2.0 \sim 3.1 \text{kgf-m}$) のトルクで締め付けてください。
6. コッタピンをシャフト端の穴に通し、ナットが緩んで脱落しないように折曲げてください。



17 冷却水経路の洗浄

海水または泥水で使用した後は、その都度真水で冷却水の通路を洗浄し、塩分または泥を取り除いてください。

■洗浄のしかた

冷却水通路の洗浄は、次の手順で行ってください。

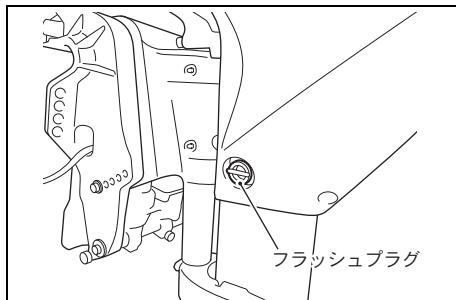
⚠ 警 告

回転しているプロペラに触ると、けがのおそれがあります。
洗浄中にエンジンを始動しないでください。

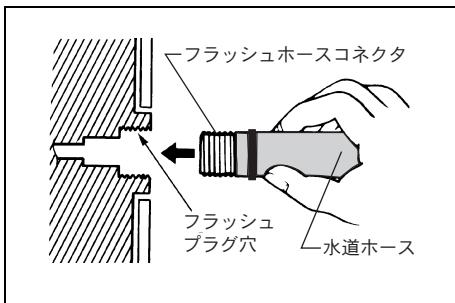
アドバイス

冷却水経路の洗浄は、船外機附属品のフラッシュホースコネクタを用いて行ってください。

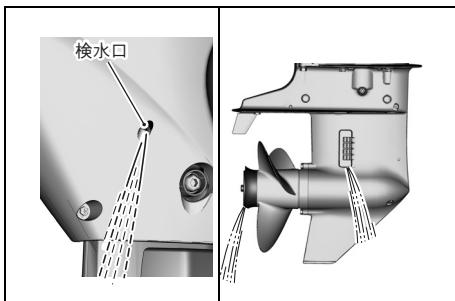
- エンジンを停止してください。
- エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを取り外してください。
- エンジンをまっすぐに立てた（通常の航走）状態にします。
- フラッシュプラグを緩め、取り外してください。



- フラッシュホースコネクタをフラッシュプラグが取付けられていた穴に取り付けてください。
- 水道のホースをフラッシュホースコネクタに接続してください。



- 水道栓を開いて送水します。検水口とプロペラボスから冷却水が充分に出ていることを確認してください。この状態で5分間以上、水を流し続けてください。



- 洗浄が終わったら、フラッシュホースコネクタを取り外し、フラッシュプラグを元の位置にしっかりと締め付けてください。

注 記

フラッシュプラグの締付け不良は、冷却水が漏れて、エンジンがオーバーヒートをする原因になります。
フラッシュプラグは、確実に締め付けてください。

- 船外機の外部を真水で洗浄し、乾いた布で水分を拭き取ってください。

18 長期格納

格納前の整備

船外機を格納する前に点検・整備を行ってください。

この点検・整備は、お買い上げいただきましたスズキ特約店またはスズキ販売店にお持ち込みいただき、依頼することを推奨します。

オーナーの方がご自身で、この点検・整備を行う場合は、次の要領で行ってください。

- 水上でエンジンを始動します。
- エンジンをアイドリングにした状態で燃料ホースコネクタの接続を船外機から外し、しばらく運転します。
- エンジンを停止した後、船外機の冷却水通路を真水で洗浄してください。
冷却水経路の洗浄：
「17 冷却水経路の洗浄」の章を参照してください。
- 燃料タンクの中に燃料が残っていたら、燃料を抜き取ってください。
- エンジン燃料配管内に残っている燃料をドレンスクリューを緩め、完全に排出してください。
ドレンスクリューを締め付けてください。
「14 取外しと運搬」の章を参照してください。

注記

こぼれた燃料をそのまま放置すると塗装のしみ、変色などの原因となります。

こぼれた燃料は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。

- 給油／給脂箇所にグリスを注入してください。
給油／給脂箇所：
「16 簡単な点検・整備」の章、給油／給脂の項を参照してください。

- バッテリーを取り外してください。
バッテリーは、乾燥した、涼しい場所に保管してください。(電動スターター仕様)
- 船外機の外部を真水で洗浄し、乾いた布で水分を拭き取ってください。
高圧洗浄機を使用するときは、船外機外部の洗浄のときにのみ使用し、洗浄ノズルと船外機本体との距離は十分に離してください。
- 船外機は、直射日光を避け、乾燥した、風通しの良い場所に立てて保管してください。

格納後（使用前）の整備

長期格納後、再び使用する前に、次に示す点検・整備を行ってください。

- スパークプラグを点検してください。
汚損が著しいものは、交換してください。
- ギヤオイルを交換してください。
ギヤオイルの交換：
「16 簡単な点検・整備」の章、ギヤオイルの項を参照してください。
- エンジンオイルを交換してください。
エンジンオイルの交換：
「16 簡単な点検・整備」の章、エンジンオイル交換の項を参照してください。
- 給油／給脂箇所にグリスを注入してください。
- 船外機の外装部をきれいに掃除してください。
- 良好な状態のバッテリーを取り付けてください。(電動スターター仕様)

19 トラブルと対処

トラブルシューティング

故障は、常日頃の行き届いた点検・整備により未然に防止することができます。

故障の多くは、取扱いの不慣れや整備不良に起因しています。

故障、不具合が発生したときは、スズキ特約店またはスズキ販売店にご相談ください。

次に最も多いと考えられる故障と、その推定原因を列記しますので参照してください。

故障の種類	エンジン始動しない	始動するが止まる	アイドリの不調	加速性が悪い	がエンジンに高い回転	がエンジンに低い回転	速度が遅い	エンジン過熱する
推定原因								
燃料切れ	○	○						
燃料系統接続不良	○	○	○	○		○	○	○
燃料系統のエア一吸い込み	○	○	○	○		○	○	○
燃料ホースのねじれ	○	○	○	○		○	○	○
エアーベントの開け忘れ（燃料タンク）	○	○	○	○		○	○	○
燃料フィルター、ポンプの詰り	○	○	○	○		○	○	○
低質エンジンオイルの使用			○	○		○	○	○
低質ガソリンの使用	○	○	○	○		○	○	○
燃料の吸い込みすぎ	○			○				
スパークプラグ仕様違い		○	○	○		○	○	○
スパークプラグの汚損、スパーク不良	○	○	○	○		○	○	
冷却水が上がらない又は少ない						○	○	○
サーモスタットの作動不良			○					○
キャビテーションの発生				○	○		○	○
プロペラの選択が不適当				○	○	○	○	○
プロペラの損傷・破損				○	○	○	○	○
積荷の積載位置が不適当				○	○	○	○	
トランサム高さが不適当				○	○	○	○	○
エマージェンシーストップスイッチの短絡	○							
スロットルリンクの調整不良	○	○	○	○		○	○	
バッテリーの過放電・ヒューズ切れ	○							
回転規制の制御の作動						○		

ヒューズが切れたとき

〈電動スターター仕様〉

▲ 警 告

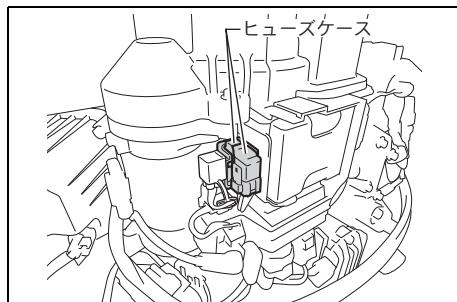
容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などと交換すると、配線などが焼損する原因になります。

ヒューズは同じ容量のものと交換してください。

スターターモーター等の電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズが切れていることが考えられます。

・ヒューズの点検と交換

1. イグニッションスイッチを“OFF”にしてください。(リモートコントロール仕様)
2. エンジンカバーを取り外してください。
3. ヒューズケースを取り外します。



4. ヒューズケースのカバーを取り外し、ヒューズを引き抜いてください。
5. ヒューズが切れていないかを点検してください。
6. 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ容量 :

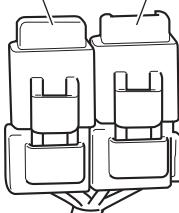
白ヒューズケース

 メインヒューズ : 30A
(電動スターター仕様)

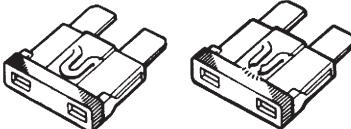
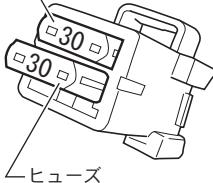
黄ヒューズケース

 ECM ヒューズ : 10A
(DF30AT)

黄ヒューズ
ケース : 10A
白ヒューズ
ケース : 30A



予備ヒューズ



正常なヒューズ

切れたヒューズ

アドバイス

ヒューズが切れたときは、原因を調べて、直してから、指定容量のヒューズと交換してください。

原因がわからないときは、スズキ取扱店で点検を受けてください。

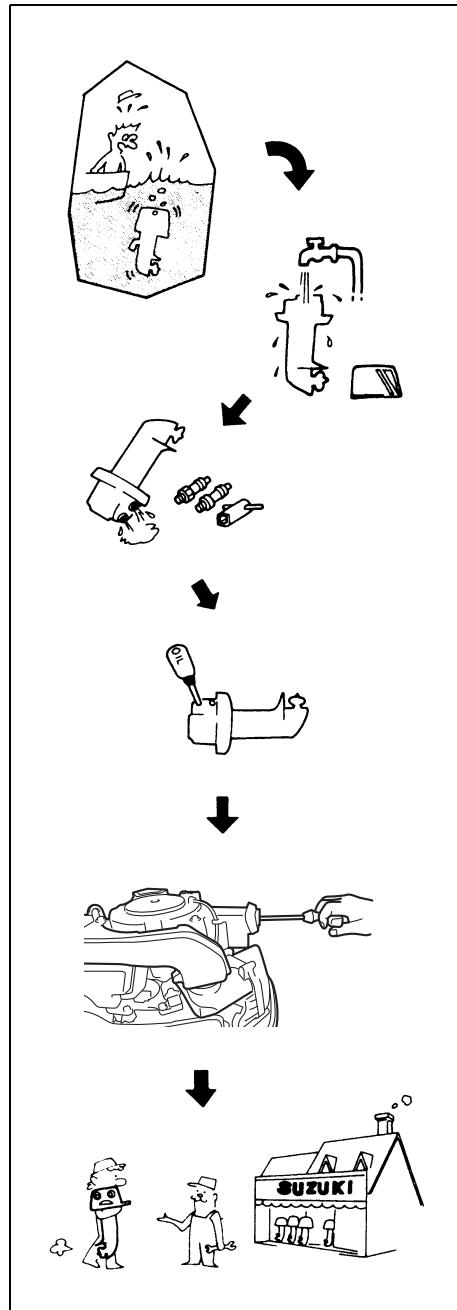
水没船外機の処置

万一、船外機を水中に落としたときは、エンジンを完全に分解し、整備をしなければなりません。

処置が遅れると、エンジンに致命的な損傷を与えることになります。

水中に落としたときは、応急手当として次の処置をしてください。

1. 船外機ができるだけ早く、水中から引き上げてください。
2. 船外機を真水で洗浄し、塩分、泥等の汚れを取り除いてください。
3. スパークプラグを取り外してください。
リコイルスターターグリップを引き、シリンダー内に入った水を排出してください。
4. エンジンオイルに水の混入がないかを点検してください。
水が混入している場合は、オイルドレンプラグを緩めて取り外し、オイルを排出してください。
オイルを排出した後は、ドレンプラグを締め付けておいてください。
5. エンジンオイルを各スパークプラグ穴から注入してください。
リコイルスターターグリップを引いて、エンジン内部の各部品にオイルを行きわたらせてください。
6. 即刻、スズキ取扱店に持ち込み、エンジンの分解・整備を依頼してください。



緊急時の始動要領

エンジン始動装置が故障した場合で、緊急にエンジンを始動させる必要があるときは、次の要領で始動を試みてください。

▲ 警 告

- ・緊急始動ロープを用いてエンジンを始動する操作は、緊急事態のみとしてください。
始動装置に不備があるときは、すみやかにスズキ特約店またはスズキ販売店に修理を依頼してください。
- ・回転部への手、髪、衣服の接触や巻き込みにより、けがをするおそれがあります。
エンジンが回転しているときは、フライホイール等の回転部に手、髪、衣服を近付けないでください。
- ・エンジンが回転しているときは、高圧コードやイグニッションコイル等の電装部品に触れないでください。
電気ショックを受けるおそれがあります。

アドバイス

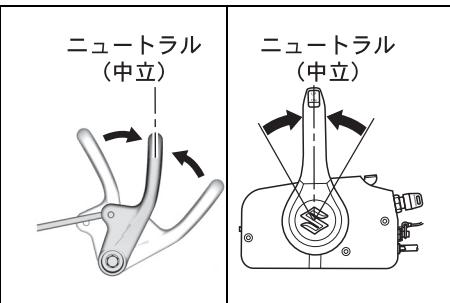
エンジンを始動するとき、リモコンレバーまたはシフトレバーが前進又は後進の位置になっていると、燃料噴射装置が作動しないため、エンジンを始動させることができません。

始動時には、必ずリモコンレバーまたはシフトレバーをニュートラル（中立）の位置にしてください。

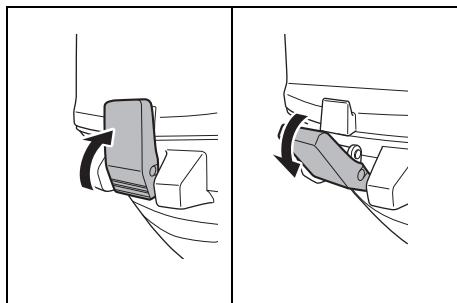
アドバイス

- ・電動スターター仕様には、緊急始動ロープが船外機の付属品の中に含まれていません。
- ・バッテリー上がり等により、電動始動装置が作動しないときは、リコイルスターターグリップを引いて、手動でエンジンを始動してください。（リモートコントロール仕様は、イグニッションキーを“ON”にしてからグリップを引いてください。）

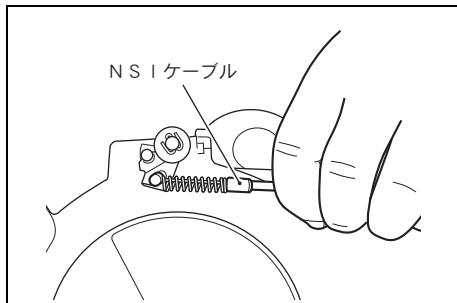
1. シフトをニュートラル（中立）にしてください。
エマージェンシーストップスイッチからロックプレートを取り外してください。



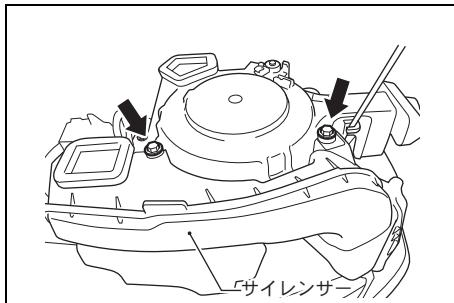
2. エンジンカバーを取り外してください。



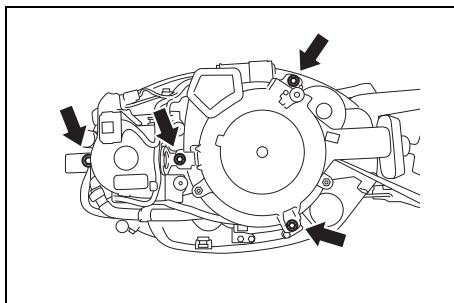
3. リコイルスターターから NSI ケーブルを取り外してください。



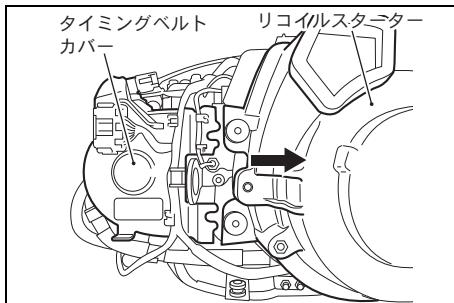
4. サイレンサーを締め付けている 2 本のボルトを緩めて、取り外してください。
サイレンサーを取り外してください。



5. リコイルスターターとタイミングベルトカバーを締め付けている 4 本のボルトを緩め、取り外してください。
リコイルスターターとタイミングベルトカバーを取り外してください。



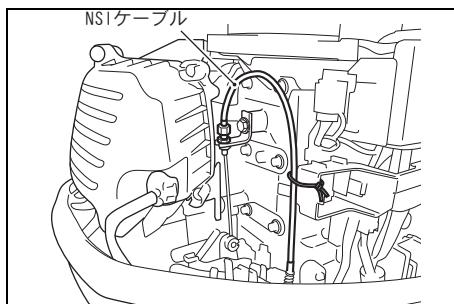
6. タイミングベルトカバーをリコイルスターターから取り外してください。



7. タイミングベルトカバーを再び取り付けて、ボルトで締め付けてください。



8. 適切なロープで NSI ケーブルを下図のように固定してください。



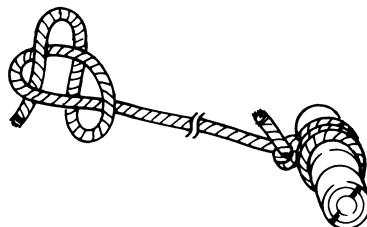
アドバイス

ワイヤリングハーネスがフライホイールやタイミングベルトに接触しないことを確認してください。

9. 通常の「エンジン始動」の手順に従って始動の準備をしてください。

- 通常の「エンジン始動」；
[12] 運転・操作」の章、エンジン始動の項を参照してください。

10. 付属工具袋から緊急始動ロープを取り出し、ロープの一端に結びを作り、他方の端をドライバーのハンドルにしばり付けてください。

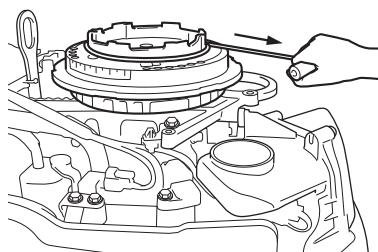


11. 緊急始動ロープをフライホイールに右まわりに巻き付けてください。
12. ロックプレートをエマージェンシーストップスイッチに取り付けてください。

▲ 警 告

フライホイールにふれると、けがをするおそれがあります。
エンジン始動後にリコイルスター
ター、エンジンカバーを取り付けない
でください。

13. 緊急始動ロープを勢いよく引いてエンジンを始動させてください。



14. エンジンが始動するまで、手順 11 ～ 13 をくり返してください。

20 仕様諸元

機種	DF25A	DF30A
全長 × 全幅 × 全高	ティラーハンドル仕様 696mm×394mm×1357mm (トランサム: L) リモートコントロール仕様 673mm×394mm×1357mm (トランサム: L)	
トランサム高さ	549mm [チルト: 2] (トランサム: L)	
重量	DF25AQH/30AQH (トランサム: L) : 71kg DF25AQHE/30AQHE (トランサム: L) : 74kg DF30AT (トランサム: L) : 73kg DF30ATH (トランサム: L) : 75kg	
船外機型式	02504F	03003F
最大出力	18.4kW(25PS)/5500r/min	22.1kW(30PS)/5800r/min
全開使用回転範囲	5000 – 6000 r/min	5300 – 6300 r/min
エンジン	4サイクル	
シリンダー数 × 内径 × 行程	3 × 60.4mm × 57mm	
総排気量	490cm ³ (490cc)	
排気方式	水中排気 (プロペラボス排気)	
冷却方式	直接水冷式 (ゴムインペラ)	
燃料供給システム	エレクトロニック フューエルインジェクション	
潤滑方式	トロコイド式強制圧送	
始動方式	DF25AQH/30AQH : リコイルスターター DF25AQHE/30AQHE/30AT/30ATH : 電動スターター (リコイルスターター付)	
点火方式	デジタルCDI	
spark plug	NGK MR6K-9	
エンジンオイル	・4サイクルモーター油 ・API分類: SG級以上 ・SAE規格: 10W – 40、10W – 30	
エンジンオイル規定量	1.5L	
ギヤオイル	スズキ純正「スズキアウトボードモーターギヤオイル」 または ハイポイドギヤオイル SAE90、API分類GL-5相当品	

仕様諸元

項 目	機 種	DF25A	DF30A
ギヤオイル規定量		330ml	
使用燃料		無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量		25L	

製品についてのご相談、ご要望は

製品のことやアフターサービスなどについてのご相談、ご要望がありましたら、お買い上げいただきましたスズキ販売店、または次ページに記載されている、お近くのスズキ特約店にご相談ください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

- ①製品名及び型式、製造番号
- ②ご購入年月日
- ③ご相談内容
- ④お客様のご住所、お名前、電話番号

スズキ株式会社の窓口は ………

〒 432-8611 静岡県浜松市中央区高塚町 300 番地

スズキ株式会社

お客様相談室

電話：フリーダイヤル

0120-402-253

受付時間

9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

※ 弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、スズキ株式会社ホームページにて掲載していますのでご覧ください。(<https://www.suzuki.co.jp>)

府県名	特約店名	電話番号	所 在 地
北海道	(株)スズキマリン 北海道営業所	011-712-6201	札幌市東区北 30 条東 1 丁目 1-44
青 森	(株)スズキ自販青森	017-781-5114	青森市石江字高間 47-1
岩 手	(有)スズキ船外機商会	0194-53-5181	久慈市長内町 37-21-11
宮 城	(株)スズキマリン 東北営業所	022-284-8310	仙台市宮城野区扇町 5 丁目 11-3
宮 城	気仙沼スズキ販売	0226-23-1437	気仙沼市田谷 20-11
神奈川	(株)スズキマリン 関東営業所	045-958-2101	横浜市旭区川井本町 105-2
静 岡	(株)スズキマリン スズキマリーナ浜名湖	053-578-2452	湖西市新所 4494-90
愛 知	(株)スズキマリン スズキマリーナ三河御津	0533-76-3521	豊川市御津町御幸浜 1 号地 1 番 25
愛 知	(株)スズキマリン 中部営業所	052-613-5656	名古屋市南区元塩町 6-24
富 山	(株)スズキマリン スズキマリーナ富山	0766-86-3750	射水市新堀 39
兵 庫	(株)スズキマリン 関西営業所	078-978-6010	神戸市西区伊川谷町有瀬 1567 番地 1
岡 山	東中国スズキ自動車(株)	086-424-8600	倉敷市沖 8-1
香 川	(株)スズキマリン 四国営業所	087-881-7830	高松市鬼無町山口 703-1
広 島	(株)スズキマリン 中国営業所	082-424-1144	東広島市西条中央 4 丁目 10-48
熊 本	(株)スズキマリン 九州営業所	0964-54-2120	宇城市三角町戸馳 11
熊 本	(株)スズキマリン スズキマリーナ熊本	0964-53-0714	宇城市三角町戸馳 11
大 分	岡田モーター販売(資)	0972-22-0789	佐伯市中の島 2-21-24
沖 縄	(株)スズキ自販沖縄	098-874-7777	浦添市港川 252-7

点検・整備記録表

定期点検			
点検時期	実施販売店	実施者氏名	実施日
初回 20 時間目			・ ・ ・
6 ヶ月目			・ ・ ・
12 ヶ月 (1年) 目			・ ・ ・
18 ヶ月目			・ ・ ・
24 ヶ月 (2年) 目			・ ・ ・
30 ヶ月目			・ ・ ・
36 ヶ月 (3年) 目			・ ・ ・
42 ヶ月目			・ ・ ・
48 ヶ月 (4年) 目			・ ・ ・
54 ヶ月目			・ ・ ・
60 ヶ月 (5年) 目			・ ・ ・
66 ヶ月目			・ ・ ・
72 ヶ月 (6年) 目			・ ・ ・

- * 点検の内容は、この取扱説明書の「定期点検」の章に記載してあります各項目に従ってください。
- * その他の整備を行った場合は、整備の主内容を次ページにご記入してください。
- * 点検整備は、お客様の費用と責任で行ってください。

その他の整備			
整備内容	実施販売店	実施者氏名	実施日
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・
			・ ・ ・

製 作

スズキ株式会社

2025年7月

不 許 複 製

スズキ株式会社